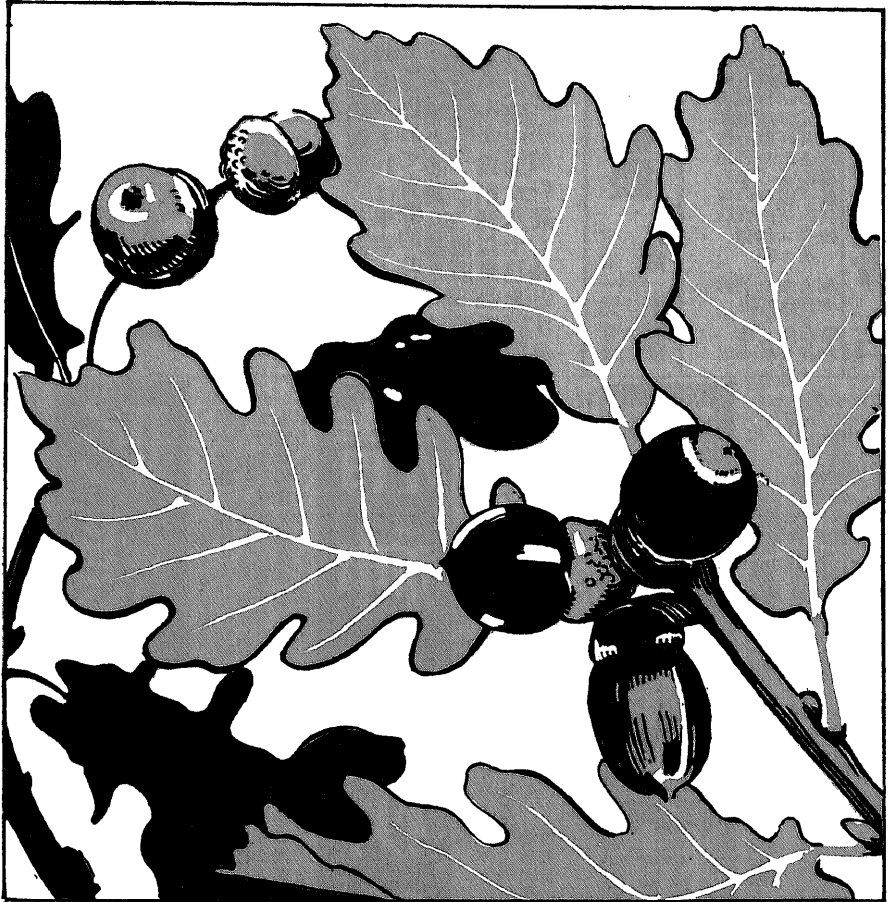


幼 兒 教 育

第 三 卷 三 月 號 第 三 號



東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內
日 本 幼 稚 園 協 會

廣島文理科
大學 內
應用心理研究會編

應用心理研究特輯號

應用心理學論文集

最新刊 菊判洋裝 全一冊 紙數貳百八十頁
定價壹圓五錢 送料 十四錢

心理學が醫學、文學、思想、教育、社會問題等、各方面に有する關聯の深きは驚くべきもので、最近のそれは學窓より街頭に出て直接生活に必須のものとして、極めて實際的問題となつて來た。雜誌「應用心理研究」は之等の必要に基き、一は諸大家が心血を注がれたる研究の發表機關として、他面一般社會の心理學應用の理解を深からしめんが爲、創刊以來既に卷を重ねて來た。今現代斯界の大家の大研究論文八十篇を特輯増大號として公にする事の出來たのは小館の最も誇とする所である。

應用心理學
特輯號
現代應用心理學概觀
定價一圓廿錢
送料 十四錢

內容目次

勞働による眼調節機能の變化 高橋 春藏
性格と時間意識 牛島 義久
未教育兒童の性的編成に就て 中田 道保
男根統裁期に於ける心 山村 義雄
外國文學に見えたる成に就て 小日向定次郎
産業心理學研究の近況 上野 義雄
我國職業指導の現狀 磯近犯罪心理學の動向
最近犯罪心理學の動向 磯近犯罪心理學の動向
我國應用心理學當と各種的側面 石井 俊小
各種的側面 石井 俊小
我國應用心理學當と各種的側面 石井 俊小
各種的側面 石井 俊小
我國應用心理學當と各種的側面 石井 俊小
各種的側面 石井 俊小

發兌
東京市牛込區
辨天町一七四
振替東京三八四二七
中文館書店

廣島文理科
大學教授 文學博士 久保良英著

形態心理學

菊判洋裝全一冊・定價三圓五十錢・送料廿一錢
形態心理學の出現と共に心理學界は一大センセーションを捲き起して居る。彼等はグントやセームスの如き巨匠に依りて建設された心理學の大殿堂を根底から覆きかき、在來の心理學とは全く異つた見地から精神現象を見直さんと企て、居る。今回形態心理學の紹介に逸早く努力しつゝありし久保博士に依り初めて本書が公にせられた。

精神分析學

菊判洋裝全一冊・定價四圓・送料二十一錢
心理學の分野に於ても我等に最も興味深きものは精神分析學である。のみならずその應用の方面に於ては殆んど無盡蔵と謂ふべく少くとも形而上の諸科學の中に在つては第一にある。論殊に最近斯くが教育界に瀰らした影響の甚大さは特筆すべきもので、性教育の根本的解決などに付ては勿論學校教育家他總て殆んど不可能とせられ居る。一般心理學徒は勿論學校教育家他總て殆んど不可能とせられ居る。

實驗心理學精義

簡單篇 定價六圓八十錢
複雜篇 定價廿七圓
送料二十七錢

本書は實驗心理學が開拓した所又はせんとする所を広く各種の行動の項目の下にその研究の方法と結果とを詳述した。特に編纂の方法は博士の體験上斯學者の最も興味を失はぬ標榜的質的兩者交互に叙述せられた。此の周到なる用意は如實に本書の上に表現す。如此本書は懇切丁寧にて現代の實驗心理學の新研究を學べ一切發表したアツプソウデ！トのものたる事は勿論特に兒童の心理實驗に力を注いだ。

保姆生徒募集

一、募集人員 五十名

一、出願期限 二月一日ヨリ三月二十日迄

規則及入學案内ハ二錢切手ヲ同封シテ請求セラル、カ又ハ山手線

目白驛前目白幼稚園ニ就キ承合セラレタシ

淀橋區下落合三丁目一、三八八

東京目白保姆學校

電話落合長崎二、五五九番

生徒募集

募集人員 七拾名

出願期限 自二月一日 至三月末日

○入學手續ヲ簡易ニ改メタリ

○入學試験ヲ要セズ 提出書類ニヨリ詮衡ノ上直チニ許可書ヲ送付ス

○無試験檢定ニヨリ保姆免許狀ニ受クル特典アリ

○寄宿舎ノ設備アリ

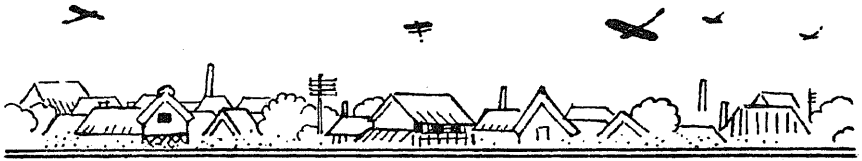
規則書入學案内ハ二錢切手封入申込マルベシ

東京市品川區大井原町五二〇八(省線大井町驛ヨリ城南バスニテ原停留場下車二分)

東京昭和保姆養成所

所 長 土 川 五 郎

顧問兼講師 倉 橋 惣 三
東京女子高等師範教授



號三第 育教の兒幼 卷七十三第

—(次 目)—

口繪

熱意—保姆諸君に語る(三)……………倉橋惣三(一)

イギリス保育發達史(三)……………白根孝之(四)

自然界の兒童……………吉田弘(二〇)

童ニコ／＼のお日様……………榎本楠郎(二五)

幼兒の流行病……………田村均(二九)

ビバの歌……………曾根保(三六)

新らしいヌリエ帖について……………及川ふみ(四)

大いそぎ大いそぎ……………新庄よしこ(五)

日誌より

心の日記の一頁……………留岡よし子(五)

保育日誌の中より……………徳久智江子(五)

砂場は幼兒の樂園……………大塚喜一(空)

こどもと光り

ユドモノヒカリ推薦の辭

小川 未明

正しきもの、美しきものに對して、子供は本能的に鋭敏な感受性を有してゐる。しかるに、多くの兒童雑誌は、それを高きに導かうとしないで、むしろ安易にして、平俗な水準に引止めやうとする。良心を刺戟し、精神的努力を要求することは、決して營利的の所以でないを考へるからだ。けれど、文化の使命はそれでいいものだらうか。もし、今日の社會を見、さらに次の時代を建設する兒童の情操の低下を知る時、何人が真に寒心せずにはゐられよう。故に一冊の雑誌を選択するにも、私は両親と學校教師の嚴肅なる批判を希ふものである。

四月特大號・金五十錢・三月七日發賣

● ● ●
ヌリエブツク

★リカヒ増刊

只今發賣中
一冊五十錢

● ● ●
新童話雜誌
お話の木

★四月一日いよく創刊

¥ .35



(導指畫繪)

清水良雄先生

(導指謠童)

西條十八先生

(導指方綴)

小川未明先生

子供研究社發行

東京・二橋七の商榮ルビ

幼 兒 の 教 育

昭 和 二 十 年 三 月

熱 意

—— 保 姆 諸 君 と 語 る —— (三)

倉 橋 惣 三

大勢の中から選出されて、その園の職員になつてゐる保母諸君に、力倆の差はさうある筈もない。老練の人は老練に、若い人は若いなりに、それらの特徴に於て立派な保育者である。たゞ熱意の差がその人を差別する。

なまけものさいふのではない。なまけものだつたら全然お話にならない。なまけものさころか、するだけのこまは一ぱいしてゐるのである。だがさうも足りない。まこが足りないの。之れで充分じやないの。まおつしやるでもあらう程に、足りないのもなし、充分なのでもある。たゞ、しかし、それだけのこまで、それ以上でない。もう一まつきりさいふさころで、ちやんま止つてゐる。見事に止つてゐる。

十のものを八で済ませて置くのを、なまけさいへば、八でありながら十らしく見せてゐるのを、さいふ。十のものを十だけして居るので申し分はないが、そこに、もう一つ進んでの意氣込みがないのを、熱意不足の人さいふ。申し分はないましても、

それだけのこゝで、當り前以上何ものでもないのである。

熱意不足にいろいろの原因がある。(一)真面目ではあるが真面目だけの場合。(二)利巧なために自分の力の出し方に調整がつき過ぎる場合。(三)周囲のつりあひに鋭敏ではぎのよさが先きに立つ場合。(四)、(五)、(六)、……こ番號を追つてゆくまでもあるまいが、何しろ興味そのものに押し出されるこゝもなく、無我夢中になるこゝもない。無事さいへば無事、安全さいへば安全、多分、行き過ぎる間違ひはないだらうが、豫期以上の何ものをも生んで貰へない。頼まれた丈は立派に果すが、そこから一步も先きに出ない。頼まれた以上に出来てゐたり、況んや、頼まれないこゝまで出来てゐるこゝが、全然ない。

それを出しやばらない態度ださいふ人がある。それでもあらう。それを謙遜な態度ださいふ人がある。そうかしら。出しゃばるのはよくないだらうが、事を濟むだけで濟ませて置くのが謙遜さいふものだらうか。之れでは濟まない。もつこ盡さなければなるまい。勝れた人、練達の人なら一ぱいくの仕事のしかたでいゝのだらうが、自分のやうなものは、その以上々々、餘分のこゝろまでして置かなくては濟まない。その熱意だけで、せめても一人前の勤めが出来るのだと思ふ方こそ、謙遜な態度さいふべきではあるまいか。これで澤山さ。さいつた態度ほご實は不謙遜のこゝはあるまい。

十すべきこゝろを十一する。十二する。そこに、一つ二つ三進展があるのである。若しそれがなかつたら、いつも進展しない。進展しないから退歩する。私達は、時折、こゝが悪いさいふのではなく、只十年一日の如く、進展しない幼稚園を見るこゝがある。熱意不足の幼稚園である。するだけのこゝは皆がして居り、すべきこゝは一つ、出来てゐるが、たゞ上品に、お靜に、そつみなつてゐるだけで、活氣も立たなければ意氣も上らない。それは、その幼稚園さして面白くないこゝだらうし、保育界そのものへ何の存在價値も貢獻しない。

高齢で、疲れ切つて、一ぱいのこみをするのが精一ぱいこいふのなら、敢て咎めもしないし、寧ろおいたわりしたい位である。それが、若い身空で、何んのこみだこいひたい位、熱意不足の人があつたら何んこしやう。園のためさか、保育界のためさかこいふこみでなくても、先づ、御自分さんが、つまらないこみじやないかと思ふ。

幼稚園に限らない。社會が求めてゐる人は熱意の人である。従つて、世に自分の存在を確立してゆく途も、賢ささか上手さかこいふこみよりも、熱意一つである。熱意ある人はたのもしい。うれしい。有難い。世はその人を認めずにもないし、感謝せずにもないし、酬るすにもないであらう。いゝわ、かまわなわ。世になんか認められなくなつて。存在なんか確立しなくなつて。之れだけしてゐれば棄てられもしないでせうよ。でもだつて、之れで立派に濟んでゐるんじやないの。……さて、熱意もこゝ迄失せて仕舞へば、ゆつたりしたものである。

ゆつたりしてゐるのもいゝが、居るか居ないのか分らないでも困る。しなければならぬだけのこみは誰れでもする。それ以上が、その人としての存在である。世からの期待でもある。すなはち、熱意のない人は、世が何を特に期待出来ない人である。卵を生まない鶏に何を期待しようか。仕事を生まない人に何を期待しようか。

しかも、すれば出来る人、させられれば出来る人で、少しも自らしらない人があるのは惜しいこみではないか。傍で見えてゐる歯がゆいこみはこの事である。

イギリス保育發達史 (三)

白根孝之

(三) 一九〇五年から現在までの發展過程

(一) 一九〇五年當時の法令と當局の保育に對する態度

一九〇五年といふ年はイギリスの保育史上劃期的な意義をもつ年である。こいふのはこの年幼児學校特に五歳以下の子供を收容するものに關する教育當局の政策上に重大な變化が起つたからである。

二十世紀の始の頃になるこ幼児の身心の發達の爲めに有效な環境の要こいふこまがかなり廣く深く理解されるにいたり、五歳以下の子供の保育問題が教育者並びに醫者の側から特に論議されるやうになつて來た。例へば一八九二年に醫師のフランシス・ワーナー Francis Warner は五萬人の各種小學校・幼児學校兒童に就いて行つた實驗の結果を報告してゐるし、シャリー・マーフォード Lord Shirley Marbury 始めその他の醫務官が數回に亙つて幼児學校の傳染性疾病に關する調査報告を警告を發してゐるし、各地方の學校當局には醫務官が設けられるやうになつた。教育の常路者は又從來の公立小學校が五歳以下の幼児のために行つて來た保育方針の誤つてゐたこを指摘し、或場合にはその與へる保育は却つて幼児の心を鈍磨せしめるこすらあつたこ言つてゐる。醫師の方面に於いては更に進んで公立小學校の下級に五歳以下の幼児を收容するこは、新鮮な空氣、運動、適度の自由を奪ふこになり、この重大な發育期にその正常の生育を妨げ

る結果になる云つて極力反對する人さへも現はれるにいたつた。一九〇四年「文部省内衛生委員會」の報告も公立小學校に於ける非衛生的な設備を指摘して一般の注意を喚起し、各地方當局は各種學校の衛生設備に關して嚴重監督する義務あるものとしてゐる。

一九〇二年イギリスでは從來 School Boards を呼ばれてゐた地方學校當局の名稱が "Local Education Authorities" と改められたが、上に述べたやうな重要な點に關して何等かの處置を講じ當局としての態度を定める必要に迫られて來た。各地方當局からの伺ひをたてられた文部省は、一九〇四年に至つて四人の女子督學官を委員に任命し、公立小學校に五歳以下の子供を收容することの可否及び之に課するカリキュラムに關する調査を委嘱した。その調査の結果に基いて一九〇五年にこの委員會は報告書を提出することになつた。之には初等教育主任督學官の覺書が序文として添えられてゐるが、その覺書によれば、委員會は(一)三歳から五歳までの子供は幼兒學校に於いて知的には殆んゞ何等の利益をも受けないこと、(二)往々にして見られる機械的な教授法は却つて幼兒の想像力を鈍磨し、獨立の觀察能力とその習慣を破ること、等の點に於いて意見の一致を見るにいたつたことされてゐる。この報告ではフレーザーの眞精神による幼稚園は大いに之を賞揚してゐるが、イギリスに於いて行はれてゐる實際の方法はその眞精神を没却して機械化したものが多いことしてゐる。

更にこの委員達の幼兒學校教師に關する報告は注意に價する。それによれば、最上の教育を受けた教師必らずしも最上の保育者でない。保育級のために特別の教師を養成することはも必要であるが、一人の有資格教師よりも、母性的性格を有つ二人の助手的な保姆の方がはるかに望ましい。これは、これは現在の熱心なる幼兒學校教師の獻心と努力を認めないといふのではなく、むしろ制度の缺陷である。六十人に餘る幼兒を受持たされて、保育の「結果」のみを重視するといふ制度そのものが悪いのである。この報告書は主として以上の如き點に關して報告をなした最後に「五歳以下の幼兒

を收容する學校に關するこれ以上の問題は、文部省及び各地方當局の慎重なる考慮を必要とするに結んでゐる。

以上見て來た所によつて明らかなる如く、この委員會は過去約一世紀の間、特に最近三十年あまりの過去に於いて著しく發達して來たイギリスの保育が漸く自己反省の期に到來したことを示すものであり、同委員會の報告はその痛切な自己批判を見るこゝが出来る。そこで文部省は時を移さずこの委員會の報告にもこづいて、一九〇五年の教育條令中に次のやうな規定を設けてゐる。

條令第五三條には「地方學校當局はその經營維持する小學校に五歳以下の子供の入學を拒絶するこゝを得」こあり、更に條令の理由書にはその理由を次のやうに説明してある。「五歳以下の幼児の就學には多くの危険が伴ふこいふ考には大きな理由が存する。且つ又六歳以前就學せざりし兒童が、幼児學校より小學校に進んだ兒童に比して、かへつて數等良好な結果を後になつて示したこいふ事例も少くない」。併し乍ら、他方に於いて地方によつてはその子供が五歳若しくはそれ以前に通學するこゝを希望する兩親の多い所もある。そこでこれ等の兩親の希望を考慮して六歳以下の子供を收容するこゝは、地方當局がその責任に於いて許される事項である。今世紀の初の十年間に於いて幼児學校の就學者數が著しく減少してゐるのは、疑もなくこの條令の影響であるこしか考へられない。即ち統計の示す所に從へば三歳から五歳の就學兒の數はこの期間に於いて次の如くである。

一九〇〇——一九〇一年	六一五、六〇七人
一九〇四——一九〇五年	五八三、二六八人
一九〇五——一九〇六年	四九七、六四三人

次に此の一九〇五年の條令は幼児保育の全領域に關する新條文を有する點に於いて注意される。即ち第一條には幼児保

育のカリキュラムに關する規定がある。之は一八九三年の廻章を大體に於ては基礎としてゐるが、保育規定としては實にイギリスに於いて最初のものである。

幼兒學校の主目的は子供の身心の自由なる發展に、柔順に注意力の養成にその機會を提供するにある。

(a) 身體の訓練は具象的な操練よりも、自由な運動からなるゲームの形式で行ふべきである。

(b) 子供にはその眼を働かせ、手と指を動かす適當にして自由なる作業を行はせ、又教師は子供と語り且つ彼等の質問を獎勵することによつて彼等に觀念の構成、意志思想の表現力を養ふべきである。

(c) 稍々年長のクラスの幼兒には是等の保育を輕い課業で補足し、注意深く聴き、明晰に話し、簡単な物語りを繰り返し、自分の手でいろいろのこみを行ひ、讀・書・描の初歩的な技術を得、且つ基本的な數の觀念をももち、上手に歌ふやうにする。

(d) 女兒には編物は課するが裁縫は尙早である。文部省の許可を得て裁縫は場合によつては七歳まで差控へることが出来る。

理由書によればこの第一條の設けられた理由は、往々にして幼兒學校に於いて讀・書・數の三科の知識が要求され過ぎ、幼兒教育の趣旨を破壊するこいふにある。

尙ほ一九〇五年には文部省は最初の「教師指針書」*Suggestions for the Consideration of Teacher* を發した。これも保育發達史上特筆すべき出來事である。

(2) 「幼稚園」と「保育學校」との發達

現行のイギリス保育機關たる「保育學校」*Nursery School* はイギリス獨特のものと言ふことが出来る。尤も、ドイツで

「幼稚園」Kindergarten、「保育所」Bewahranstrait、フランスで「幼児學校」ecole maternelle、「保育學校」ecole gardiennu と呼ばれて發達したものはこのイギリスの「保育學校」に若干の類似點をもつものである。

イギリスに於ける「私立幼稚園」Free Kindergarten はフレーベルの影響の下に十九世紀の最後の三十年間に主としてロンドン、マンチェスター等の大都市に於いて貧困家庭の幼児のために漸次に發達したものであるが、「保育學校」は是等の私立幼稚園から發達したものである。私立幼稚園は貧困の家庭の幼児をその圓滑な身心の發達を害するやうな環境から救出して、之に望ましい環境を與へんことを目的とし、その始めから幼児の身體上の顧慮を第一とし、或る場合には食事の供給や浴場の設備をも有してゐた。最も有名なのは一八七三年ウィリヤム・マザー Sir William Mather によつてサルフォードに建設されたもので、食事と温浴の設備を有し、イギリスに於ける最初の保育學校と稱されてゐる。一九二〇年にウィリヤム・マザーは此の學校の發生に關して簡單な敘述を残してゐるが、それによれば、當時サルフォード市に於ける幼児學校の子供は著しく身體の發育不全が目立つた爲め、ウィリヤムはフレーベルの「幼稚園」の設立精神に基いて、彼等の爲めの特別の施設を思ひ立ち、學校に於いて食事、衣服の面倒を見てやると共に、之に適當な遊戯と休息の設備を加へることにした。そこには「食堂、浴場、休憩室等」があり、五百人の幼児を收容し得る二つの大きな部屋をもち、六歳又は七歳に達して公立小學校に入る迄の二歳以上の幼児を收容した。そしてドイツから優秀な幼稚園専門家を招待して顧問としたが、これが人格的にも教育上もきはめて勝れた人で、イギリス人の助手の協力を得てこの學校の充實に少からぬ貢獻があつた。

十九世紀の後期になつてアメリカに於いてこの私立幼稚園の運動は俄然勃興を見たが、一九〇〇年にこの運動に影響されてアドレイド・ラッグ Miss adelaide Wragge がウールウィッチに一つの私立幼稚園を經營したのを始めとして各地に

同様のものが次第に殖えるやうになつた。一九〇三年エディンバラに建てられ現在も存続する「レイド幼稚園」の如きはその一つである。是等は幼児に健全な環境を與へて、その精神的發達を正しく導き、自由な活動、運動を課し、良習慣を養成し、社交性を馴致し、且つ両親との協同さいふこみをその目的とした。

現存する多くの保育學校のうちには是等の私立幼稚園からそのまゝ發達したものが少くない。後に説く如く一九一九年に政府は保育學校を獎勵して之に補助金を交附するこゝにしたが、その時にたゞ從來の「幼稚園」を「保育學校」に改稱しただけのものが少くないのである。

(3) 一九〇八年の委員會の報告

一九〇七年に文部省は特に「五歳以下の幼児の就學に關する調査委員會」を設けた。蓋し二十世紀の初に於ける幼児學校の不評判はこの年齢の幼児の就學率を漸次低下せしめたが、當局としてはこの問題に關して更に再考慮を必要としたが爲めであらう。その課題は「五歳以下の幼児の就學を制限する方針の良否を、教育的並びにその他の見地から調査、考案し且つ報告すべし」といふにあつた。

翌年一九〇八年にこの委員會は文部省に報告を提出したが、その調査による當時の幼児學校の状態は次の如くである。質問狀に答へた三三二の地方學校當局のうち一五四は無條件に五歳以下の幼児を收容し、七四は設備教員の不足の理由で、六二はその他の理由で一部分の幼児を拒み、三三二の地方當局は全然この年齢の幼児を收容してゐない。

こゝで委員會はイギリスのみならず、フランス、ドイツ、スイス、アメリカ等の諸國に於ける保育實情を廣く調査した結果、第一に次のやうに報告してゐる。「幼児の保育問題はその國の一般社會狀態、經濟狀態等との關聯に於いてのみ正しく扱ふこゝが出来ぬ。こゝでイギリスの社會の現情を以つてしては、幼児に對する家庭教育は一般に理想的なるを

期待し得ない實情にある。我々はまづ我國の勞働階級の實情を明かにせねばならない。この實情を無視して、社會的、産業的に進歩した國の制度や、單なる理論的根據に基く制度をそのままに採用するといふことには、大いなる危険がある。かくしてこの委員會は保育學校を無條件に採用もせず、さりきり無下に斥けもせず、要はその土地の社會狀態によるものとしてゐるが、この結論の根柢には、幼稚園は家庭の補足でありその延長であるとの立場が既に抜く可からざる前提となつてゐることを示してゐる。「優れた保育學校の影響と成果とは、その後の一般教育特に女子教育の改革と相俟つてイギリスの家庭生活の向上改革に貢獻するであらうし、その曉に於いては五歳以下の幼児の教育に就いては、當局は之を一切家庭の手に委ねて安心することが出来るであらう。けれども現在のところでは、保育學校は實際上必要であることを本委員會は認める。之を適當に運用することによつて必ずや大いなる利益が擧げられるであらうし、その進歩改革に向けられる一切の努力は、將來の世代の健康と知性と幸福を増進する上に貢獻するところ少くないであらう」。

就學の最低年齢に就いてこの委員會は三歳を以つて決して尙早でないとの結論に達してゐる。彼等の見た所では、適當な設備さへ存する場所では三歳の子供も就學に無理でない。従つて就學最低年齢を引上げることは賢明でないとされてゐる。

保育の實際についてはこの委員會は一九〇五年の條令及び「指針」の趣旨を全然踏襲して、五歳以下の幼児は決して過重な精神的負擔・身體的訓練を課せられてはならないとし、自由なる運動、作業の變化、運動場の利用、午睡等を勧めてゐる。そして一學級に收容する幼児の数は出来るだけ制限すべく、専任の教師の他に助手を使用することを勧めてゐる。但し之は身體の顧慮に關する事柄に限る。最後に教師の選擇に際しては慎重な顧慮の拂はれることを必要とし、「理想の保育者たるの資格は先づ第一に幼兒の身心の發達に關して深い研究をこぎ、母性的の同情に富み、明朗にして強固な人格」たる

にある。

この委員會が「保育學校」に下してゐる定義は當時に於ける保育事業の内容之に對する當局の理解の程度を示すものとして注目に價する。即ち「特別の部屋」特別のカリキュラム「特別の教育法」によつて小學校就學以前の子供の特別の要求に應じ得る學校」を爾後はすべて保育學校と呼ぶ、としてゐる。

(4) 獨立保育學校の發達と衛生的施設の重視

かくて右の委員會の報告はその内容に於いて極めてすぐれたもの云ふことが出来るが、一九一八年の有名な教育條令（本章第六節參照）が出る迄は、これを實際は移すやうな法的規定は發せられなかつたのである。且つ又當局の補助金も一九一九年にいたるまでは特に保育學校のために交附されてゐない。けれども個人の經營の下に小規模の保育學校が主として大都市に漸次建設され、中には今日に存続する有名なものもある。中でも最も有名なのは一九一一年ラッチェル Rachel ミマーガレット・マックミラン Margaret Mc Millan の二人によつてデプトフォード Deptford に建てられた保育學校である。それは運動場を中心にした數個の天蓋だけの校舎からなる「戶外學校」で後まで他の多くの保育學校の模範となつたものである。當時こそ小さい一私營の天幕式な保育學校であつたが、今日ではイギリスを通じての最も大きい模範的な規模を有する。これはすべてマックミランの大きな功績とされてゐる。今一つの私營保育學校は一九一五年マンチェスター市の有志が組織する委員會の手で近郊の細民街アードウィック Ardwick に建てられたものである。それは二つの簡素な小屋の如きものからなり、始めは單なる子供の集合遊戯場の如きものであつたが、漸次に改良が加へられて、猶ほ今日に存続してゐる。

一九〇五年の頃から一般の學校設備の中に含みて保育學校の設備や建物や一般經營の上に大きな變化改良が起り始め

た。一九〇二年に文部省は地方學校當局の制度を設けてその地方の學校行政に任せしめたことは、既に見た所であるが、その結果是等の當局には建築技師や學校衛生官が新たに任命されることになつた。特に一九〇七年の學校條令では、「小學兒童衛生監督局」なるものが設けられ、その後學校の衛生問題に關する組織的な研究が初められるやうになつた。そして醫學的見地から「戶外學校」Open-air School なるものが試みられ、前記デプトフォードの保育學校の如きはこれが先鞭をつけたものとして注目された。戶外學校といふのは、少くも二方の壁を明け放しにした建物を意味するものであつた。實施の結果は成績極めて良好なものがあつた。文部省の醫務局主任より發する年報の一九一二年度の報告によれば「戶外學校の新方法は大きな進歩である。それは教育上も醫學上も大いに有效なものとして認めらるゝ」とある。かくして戶外學校は學校の一般的形式にまで普及するところになつた。

五歳以上の子供の身體の養護及び一般的取扱といふ問題に、世の注意を惹いた今一つの事柄は、前記「小學校兒童衛生監督局」の設置（一九〇八年）である。

地方學校當局はこの目的のために専任の醫務官を任命し、文部省内にはジョージ・ニューマン Sir George Newman を主任とする特別の醫務局が設置されることになつた。ニューマンの年報は一九〇八年から毎年公けにされたが、學校兒童の衛生、健康の問題に關する一般の注意を喚起したことは大きな貢獻であつた。例へば一九一一年の報告には次のやうにある。「注意によつて避けられ然も一旦之に罹るや一生を害ふが如き病氣に侵され易いのは、人生に於ける最初の時期である、云々。」この局の活動の結果、就學兒の約四〇％は直ちに醫療的加護を必要とするといふ驚くべき事實が明かにされたのである。然もそれは醫術的に決して避け難いものではなく、その多くは不注意と放任の結果であることがされた。

この危険を除くために、地方學校當局が特別の努力を拂つたことは云ふまでもないが、その他「母の學校」や「託兒所」や

「幼児診療所」が公私の經營の下に諸所に設けられることになつた。そして文部省が一切是等の設備や事業を統轄してゐたが、一九一九年には「衛生省條令」(Ministry of Health act)第三章の規定によつて「懷妊婦・母親及び文部省認可の小學校就學前の幼児の保健衛生保護に關する事項」は衛生省の管轄に移されることになつた。要之、就學前幼児の保健・衛生に關する當局の注意と配慮とが大いに高まつたことはこの時期に於ける著しい事實として注意すべきである。

(5) ダーウィン、デュイ、モンテッソーリの影響

二十世紀の初頭以來イングラント及びウェールズの幼児保育思想の上に、極めて大きな影響を與へたものに、ダーウィン及びその繼承者達に始まる生物學的的人生觀である。それは又或る程度まで、ルソー、ベスタロッチ、ストー、フレール等の教育學說に科學的基礎を與へることもなつた。これ等は其の始めに於いては科學的といふよりも哲學的又は形而上學的性格のものであつた。ダーウィン主義の影響は幼児の發生學的研究となり、生體としての人間の生長の不斷性・質的變異といふ點が重大視されるやうになつて來た、教育過程に關するこの新しい生物學的概念の最も偉大な代表者はジョン・デュイ John Leewey であらう。デュイは又、個々の子供の有機的發達といふ觀念の他に、その生長を方向づける社會的要素に對して高い地位を認めてゐる。

デュイ教授は一八五九年に生れ、一八九四年新設のシカゴ大學の哲學及教育學の教授に就任した。彼の最も有名な著述たる「學校と社會」School and Society は一八九九年シカゴで發表されたが、忽ちイギリスの教育界の注意を惹いた。彼は幼児の行動を仔細に研究觀察して、その世界・自然・環境に對する態度の直接的なることに強く惹かれた。そこで彼は幼児には周圍の世界を自己の眼で觀察し、特に具案的にゆがめられない體驗によつて之を學ばしめることの重要なことを主張した。彼は手工作業が子供にこつて知識の發達上重要な意義をもつことを強調し、出来るだけ素朴原始的な狀態の

下に原始的な材料による経験を望んだ。一九〇六年にマンチェスター大學のフィンドレー教授は、デューイの論文集を編輯してこれを「幼児シカリキュラム」(The Child and the Curriculum)なる題名の下に發行したが、そこに收められた論文の基調をなした一つの思想は「爲しつゝ學ぶ」^{Learning by doing}「さいふ手工的作業主義のそれであつた。プロブレム法、プロジェクト法等の名でアメリカの教育界を席捲した思想は、實にすべてデューイに歸せらるべきものである。デューイの書物はイギリスの幼児教育者及び學生によつて盛に研究愛讀され、これ程に此の國の保育思想上に顯著な影響を及ぼした人はおそらく無いであらう。

マリヤ・モンテッソリ Dr. Maria Montessori の學説は一九一〇年の頃からイギリスの教育特に幼児の教育に、間接ではあるが重要な影響を與へるこゝになつた。彼女も亦デューイと同じく經驗的生物學的原理の上にその學説を打建てたが、たゞデューイと異つて、社會的環境の下に幼児自身の經驗の方法を見出すさいふよりも、むしろ準備され整理された環境の中に於ける保育の過程を示さんとした。「幼児教育の科學的方法」を題する彼女の名著は一九一三年ローマで發行されたが、その一年以來に「モンテッソリの方法」を以てアン・ジョージにより英譯刊行され、デューイに劣らない影響をこの國の保育界に與へた。この書の中に於いて彼女は幼児に自然的發達を許すこゝの重要なこゝを説きつゝも、然もそれは注意深く準備され整へられた環境に於いて行はるべきであるこの以上の根本思想を披瀝してゐる。

モンテッソリが幼児の感覺の陶冶、基本的數や形の觀念を養ふために使用した器具は、セガン Edouard Séguin (1812-1888)が虚弱又は不具兒童のために考案したものをかなり利用してゐる。そして是等の器具は幼児自身が之を使用すべきで、教師は指導的必要的ある場合にのみ之を使用すべきである。この「モンテッソリの方法」には多くの注意すべき暗示が含まれてゐるが、之を實際に取入れるためにはイギリスでは稍々不便な事情があつた。且つその器具は數や形の觀

念の養成は大いに有効であるが、幼児の自由なる想像作用や成人の世界への興味を指導すべき有効な工夫に缺けてゐた。けれども彼女がこの國の幼児保育者に與へた影響にはかなり大いなるものがあつた。それは次の諸點に要約されるだらう。

(1) 保育活動上教師の積極的態度を出来るだけ制限して、幼児の自己活動を獎勵重視する傾向の生れたこと。

(2) 器具の使用による直觀教授の重視、幼児の自發的自律的活動の獎勵。

(3) 身心の一般的保育上科學的態度が確立されたこと等。

以上述べたジョン・デューイ・ミマダム・モンテッソリーの教育思想を、そのイギリスに於ける影響によつて、我々は幼児保育上に於ける自己活動・直觀主義・作業主義等の觀念が普及して來たことを知る。デューイもモンテッソリーも幼児の自然的發達の介添さいふこみを重視し、保育史上の大道を樹立したことを云ふことが出来る。

(6) 一九一八年の條令とその後の發達

一丸一八年の條令によつて文部省は保育學校の設立又はその補助に關する權限を地方學校當局に與へた。法令による規定はイギリスではこれが始めてである。即ちその條文には

「地方學校當局の初等教育に關する權限は向後左記のものを含む」。

(1) 二歳以上五歳までの幼児童に對する保育學校の經營若しくはその補助(但し身心の發達上當局が小學校への進學を無理とするが如き兒童も之を含む)。

(2) 保育學校の幼児の健康・榮養・衛生・保護に關する諸施設

これが幼児保育に關する現行法であるが、法律的には保育學校への入學は何等の義務をも伴はない。そして「公立學校」の中には法的には含まれてゐないのである。一九二一年に發せられた「教育條例」に於いても、當局の趣意は保育學校への

又學兒は「健康・身體・精神の發達上かくの如き特別の設備を必要とする子供」にのみ限らんことを方針であることが明かである。そして又實際に就いて見ても、現在に至るまで當局によつて認可され經營・維持の全部又は一部が之によつてなされてゐる保育學校は大都會地で家庭生活が完全な状態で行はれない地方にのみ限られてゐるやうである。

それはさもなくも、一九一九年文部省は特に保育學校に關する條例を發布した。その序文に當局が保育學校なるものを認可し之を或程度まで保護せんことをいたつた間の消息が詳しく述べられてゐる。そこで此の條文に基いて一九一九年度の三月末までに新たに十三の保育學校が補助を受けることになつた。その多くは私經營の下にそれ以前に設立されたものであつた。併し一九一九年の法律はこの程保育學校の認可規定としてかなりに重い資格を六つかしい條件を要求した爲め、又一つには地方學校當局が一九一八年の條例によつて過重な法的義務を負はされてそれが實現に忙殺されるやうになつた爲めに、保育學校の發達は極めて遅々たるものであつた。そこへ更に不利な事態が加つた。即ち一九二〇年戰後の財政の緊縮建直し方針のため、二二年一月文部省の廻章は各種學校に向つて經費節減の訓令を發した。その第十條保育學校に關する項に於いて「文部省は特別の事情の存する場合、若しくは従來の經驗に鑑みて優秀なる成績を擧げてゐるもの、他は、保育學校の設立、維持の爲の補助金の要求に應じ得ざるものとす」とある。この廻章は一九二四年まで動力を有するものであつた。

一九二四年の三月になつてその有効期間が完了するを待つて、文部大臣は議會に於いて保育學校に對する好意的態度を表明し、適當にして必要と認められた場合には保育學校新設の提案に應じざる旨を宣言した。翌年一九二五年には文部省は特に保育學校のみに關する簡單な規定を發し、これが從來今日にいたるまで效力を存してゐるのである。この規定によれば

(一) 保育學校への就學年齢は滿二歳以上なること。その年限は滿五歳以後に及ぶべからず。五歳以後に及ぶ場合には又

部省の認許を必要とす。

(2) 休憩、食事、娯樂のために充分の施設を行ふべし。

(3) 健康・榮養・發育のためには適宜の處置を講ずべきこと。

(4) 學校の負擔として食事、醫療は之を行ふを得。

けれどもこの規定等の力によつても新らしく設立された保育學校の數は極めて少い。それは教師團の整備が困難なこゝ、設立施設に多額の金を必要とするこゝにもよるが、一九一九年の條例が幼兒の個別的保育を強調し、傳染病の防止のために嚴格な制限を附したこゝに主なる理由がある。

次は一九二九年十二月五日に、保健局と文部省とが聯合して母性及び幼兒保護に關する廻章をそれらの機關に對して發したこゝを擧げねばならない。その中に保育學校に關する條項が加へられ、それによれば「保育學校の目的は二歳乃至五歳までの幼兒に健全なる身體及び精神上の發達を顧慮してやるにある。かくてその目的は保育と教育との二重機能を含む。人口の群集する地方にあつては、家庭の狀態及び環境によつて他から不斷の配慮と注意とを受くるを必要とする幼兒が多數にある。之を引受けるのが保育學校の任務である」と規定されてゐる。

更にこの廻章に於いて文部當局は、向後新しい小學校、幼兒學校を設立する場合には、特に五歳以下の幼兒のための設備をも加へるべきであるとし、その場合保育學校を以つて大體の基準とすべしにしてゐる。但しその程度まで之によるかは一にその土地の事情、同地方に保育學校の有無によつて異なるべきである。その設備は出来るだけ廣い運動場をもつ戶外學校式のものを目指して、實驗・實習、日光浴室等をも加へ、冷水・温水の供給を顧慮すべきである。最後にこの廻章は五歳以下の幼兒の收容の最大の利點は、これによつて幼兒を常に衛生的醫療的保護の下に置くこゝにあると言つてゐる。

併し前に述べた如き事情によつてその増設の極めて遅々たるものゝあつた保育學校は一九三一年の全般的經濟危機に會つて遂に完全に停止するこゝになつた。

けれども一九二〇年代に於いて、公立小學校内の五歳以下の子供に對する幼兒級の設備なり内容なりは、保育學校運動の影響によつて著しく發達改良されたこゝが目につく。その直接の最も大きな原因は教員養成大學に於ける師範教育の向上進歩に存する。一九〇四年の「教員養成及び師範學校に於ける試験に關する規定」は幼兒學校に於ける教育に關する知識と技能に就いてかなり之を重要視する立場を取つてゐる如きは之である。更に一九〇七年の教員養成規定には一層詳細なる規定が加へられて來た。而して幼兒保育上の方法はフレーベルは幼稚園思想、ジョン・デューイ、マダム・モンテッソリの思想、及び保育學校運動等に就いて教育者が異常な熱意の下に之を研究したこゝによつて、著しく進歩して來た。之を保育の實際に就いて見ても採光・採熱・換氣設備の整備、その他の器具器材の充實の上に明らかな進歩が見られる。更にこゝ數年の間に多くの小學校特にマンチェスター、ライセスター等の工業大都市の小學校は、五歳以下の幼兒級を獨立の保育學校に變更したものが少くない。又保育學校の方法を採用した保育級としたものは更に多數である。かくして保育學校は、イギリスの保育史上、幼稚園運動及びデューイ、モンテッソリの思想と並んで、その發達を促す大きな力になつた。

(四) 結び

現在に於けるイギリス保育の總計的實情は次の如くである。これは一九三二年三月三十一日現在の總計による。

イングランド及ウェールズを通じて三乃至五歳の幼兒總數一、一八九、〇〇〇人、五乃至八歳まで一、八九一、〇〇〇人。そのうち三乃至五歳の一三・二%即ち一五七、五五一人が公立小學校の幼兒級に、一二〇、九一〇八人が幼兒學校に、三五・

八七七人がその他の設備に收容されてゐる。

保育學校は同年同日現在に於いて五十五校が文部省によつて公認され、そのうち三千は地方學校當局の經營になり、二十五は私立團體の手で維持されてゐる。その收容全幼兒數は四、五〇〇人である。

一、八九一、〇〇〇人の五乃至八歳までの幼兒中一、六七八、四七三名が小學校に就學してゐる。

要之、イギリスに於ては教育に對する大規模の施設の必要が認められた前世紀の初、當初から一般小學校は別個の設備としての保育機關といふ觀念が既に存してゐたことが知られる。そして一八七〇年にいたる頃には、獨立の幼兒學校又は小學校附屬の幼兒級の必要は、一般的に認められて來て、一八七〇年の教育條令によつて五歳が義務就學の最低年齢として認められるや、保育學校又は幼兒級は初等教育の一部分となつた。更に一八七二年からは三歳以上の幼兒に就學が可能となり、當局の進歩的態度も、教育者の努力によつて次第に完備して來た。その最も大きな結實は保育學校である。

イギリス保育の將來も亦大體この方向に進んでゆくであらう。ここはかなりの正確さを以つて推定され得るであらう。(完)

〔後記〕以上三ヶ月にわたつて述べたところによつてイギリスに於ける保育の發達の跡は大略明らかになつたことと思ふが、更に昭和

九年十一月號の本誌に掲げられた筆者の「英國に於ける幼兒保育の發達」及び昭和十年五月號に載せられた英國文部省の幼兒保育指針と併せ讀まれることによつて、イギリスの保育の過去と現在とは稍々その全貌に近いものが明らかにされるのではないかと思ふ。

自然界と兒童

東京女高師附屬小學校

吉 田 弘

一 兒童經驗の世界

兒童の生活環境として、第一に考へねばならぬのは自然界である。兒童は經驗の集積によつて次第に伸びて行くのであるが、兒童の經驗に取つて大なる分野をなすものはこの自然界である。もつより自然界のみが、兒童の生活の全部ではない、親、兄弟、友達、教師なきに取りまかれた世界もあれば、玩具に取りまかれた世界もあるわけである。親、兄弟なきの人々に取り圍まれた世界が、人倫道德への成長の分野に關するものとするれば、玩具の世界は構成工夫、情操なきへの展開の分野に關するであらう。然らば自然界は何の分野に關するだらうか。知識の分野を第一とし、情操やその他の都面に關するであらう。かゝる意味に於て、兒童教育上等閑に附するこゝの出來ぬものは、自然界に於ける兒童の生活である。では自然界を教育的に見る時には、何をもつて本質の第一とすべきであるか。これは申すまでもなく、兒童の經驗する世界として見べきこゝである。經驗に就いては、「百聞は一見に如かず」昔から言はれる通り、經驗に取つて代る何物も存しない。誤れる教育觀は、説明をもつて經驗に代へんとする試みをなすのであるが、説明はあくまで説明であつて、經驗の代用となり得ない。この點が今後の教育に於て最も考慮すべき點であつて、經驗を通して兒童の成長發展を考へなければならぬ。茲に於て、經驗の重要な分野をなす自然界といふものが、教育上から大いに考慮されなければならぬのである。幼稚園

の教育は知らず、小學校の初學年の教育としては、從來はあまりに、自然界についての考慮が足りなかつたのである。

二 經驗の價值

經驗が我々人類の知識發達に對して必要であることは、一々説明を要しないことであるが、假りに一人の兒童が生れた時に、一つの部屋に入れたきりで、世間及び社會に没交渉の生活をなさしめたを考へて見るに、その兒童は如何なる發育をなすであらうか。恐らく言語も發することが出来ないだらうと思ふ。

我々人類の言語は、人類が發生したと同時に恐らく發生したであらうと思ふが、直ちに人間と人間との交渉によつて出來たものは考へられない。何と言つても、自然界の事物及び現象を通して出來た言語が最初のものだらうと思はれる。言語といへば、人々との間に交はされるものであつて、自然は没交渉の様に思ふかも知れぬが、自然といふものがないには、人類の生活も不能であつたと同様に、言語の發生は考へられないのである。

人間生活の中の重要な要素をなす、善悪か惡善かの、比較的高尚なる道德的事柄にしても、その根原を考へて見るに、自然界に没交渉ではあり得ない。否考へ様によつては、自然物といふものが、道德發生の根本を成してゐるを考へてもよいのである。自然物の利用といふことが、人類生活の根幹をなすので、自然物が不足して來るに、人間の所有慾といふものが之に働きかけて來る。その時に他人のものは取つてならぬといふ道義や、自分自身の所有權といふものがそこに發生して來る。同じこの世界に生存してゐる人類同志が、所有權といふものの中に於て、相互に衝突しない様にするために、そいふ高尚な道德も發生したを考へられる。道德でさへもがさうであるから、更に具體的なる色々の事柄に関する言語といふものが、自然物、自然界を仲介にして發生發達したものであることは、容易に考へ得ることである。

この様なわけで、自然界に於ける経験さいふものは、人智の發達に絶大なる關係を有するものであるのに、從來の兒童の教育にあつては、制度の上からも、教育教授の實際からしても、自然界に對して、あまりに無關心ではなかつたらうかと思ふのである。幼稚園及び小學校の幼學年の教育に於て、自然界を環境とする教育に、乗り出して欲しいものである。

三 自然と人生との交渉

更に別の方面から、自然と人生との關係を考究して見やう。文化の標識なる文字について見るに、之にも自然界との交渉が十分に窺はれる。色々の樹木に關する文字を考へて見るのに、松、櫻、梅、桃なき、樹木の名を示す文字をあげて見るに、何れにも木扁がついてゐる。これは漢字であるけれども和名でいふと、「まつのみ」「はぐらのき」「うめのき」「さいふ様に、「き」「さいふ言葉がいつもついてゐる。これは我らの使用する文字や言葉が、自然物に關聯して出來たさいふこの確かな證據になるばかりでなく、かゝる文字や言葉の本質を考へて見るに、理科で我々が研究する所の分類學さいふもの芽生がそこに見出される。

即ち地球上にいろ／＼の植物が繁茂してゐる。その中で草本には草本らしい言葉、木本には木本らしい言葉が發生するさいふのは、分類學の見方が、至つて幼稚な時代から、既に我々人類の頭の中に働いてゐたさいふ證據になるのである。

分類學的な智能を働かして、色々の言葉を創製したのではあるが、人智が進んでゐなかつた結果は、その言葉の中に、多少の誤りがないではない。樹木などの判りやすいものには、さうした例は少いが、魚類を現す文字などになるに、さうした例がなか／＼多い。鯛・鯛・鯛さいふ様な、本當の魚類に魚扁がついてゐるのは何ら差支ないが、鯨・鯨さいふ様な文字をあげて見るに、鯨は哺乳類でありながら魚扁になつてゐるし、章魚は軟體動物であり乍ら魚さいふ字がついてゐる。こ

れなきは、言語發生の當時、人類は既に分類學的な見地に立つて、さういふ言語、文字を産出したのであるけれども、本當の分類的知識がなかつたために、かゝる誤謬に陥つたのである。しかし我々はこゝで、かゝる語源の研究をなさうとするものではない。人智の發達に、如何に自然物が重大なる關係をもつてゐるかといふ、引例をなしたに過ぎない。それで、我々が小學校へ入つて來た兒童の教育を考慮する時に、自然界をかけ離れた没交渉の教育をしやうとするこゝが、我々人類の先祖が發達して來た跡形を眺めて見ても、そこに不都合な點が甚だ多いといふこゝを、深く考慮に入れて頂き度いのである。之は又人類が經過して來た文化の各段階を、順序よく踏襲させるといふこゝが、教育の眞髓であるこゝされる教育理論に照らして見る時、教育初步に於ける自然界尊重の必要を一層痛感するものである。之は單に小學校の教育に於てのみでなく、幼稚園の教育としても考慮すべき重大な問題ではないかと思ふのである。

四 自然界の親しみ

然らば幼稚なる兒童の自然界に於ける經驗は如何なる状態をもつてなさるべきであるか。この時對象となるものは、漠然とした概念的なる自然ではない。植物もか動物もいふ具體的のものが、その對象でなければならぬ。自然現象なきといふ、不態現のものであつても、之は不適當である。

先づ植物でいへば、植物を採集させたり、植物を栽培させたりする所にある。勿論植物採集といつても、植物學の研究でもなす様な、植物品種の蒐集を意味するものではない。幼少な兒童にしてなさしむべきこゝは、つくし摘みとか、花摘みとかいふ程度のものでなければならぬ。兒童は蒐集の本能を有するもの故、この様な意味での植物採集をなさしむるこゝは、非常に喜んでなすものである。この取扱にて數量の生活もなさしめられるし、植物名を知らせるこゝも出来る。勿論幼稚なる兒童に對して、之は何といふ名前のものだし教へるこゝは避くべきこゝで、かゝる經驗をなす間に、之は何と

いふ物かミ児童をして自發的に、質問せしむる様に仕向け、その上にて名稱を授くべきものであるは言ふを俟たないのである。又たんば摘みをやらう、すみれ摘みをやらうといふことになれば、名前のために名前を教へるのでなく、仕事の形態、遊びの形態をもつて、植物名に親しむ機會ミすることが出来る。名稱の取扱ばかりではない、感官を働かし得る方法もある。赤い花を出来るだけ多く集めよ、白い花を集めて見よといふことにすれば、色に對して感官を働かす機會をつくり得るのである。又例へば、クローバの茂つた處につれ行れて、四つ葉をさがして見よといふことになれば、數の觀念を興味深き仕事の中に、十分に取扱ひ得ることになる。こゝでは二三の例をのべたのであるが、かゝる工夫をなす時には植物を利用して、感官を働かせる機會も出来るし、自然に親しむ機會もつくり得るのである。

植物の栽培については、幼児にも種まき位はなさしめられる。發芽後にいろいろミ世話させることができれば、児童の植物に對する愛著心を喚起し得ることか、是非ミも實施して頂き度いのである。

次には動物の愛護である。これは植物ミちがつて、一層児童に親しみの情をよび起し得るもの故、愛護の精神を高潮するには適當のものである。兎をかふ、鶏をかふ、金魚をかふ。さういふ場合に、児童達は自分の愛する動物ミして、それだけこれに愛著を感じるこゝであらうか。かくして児童が動物を愛して、日常之ミ親しんで行く時には、児童の心は決して淺薄なものになり、不良のものになるこゝはないのである。かういふ點からして、動植物の愛護ミいふものを、幼少の児童の頃から、重視して行き度いものミ思ふのである。

日本の児童は、只一人で野原に坐つて、半日を遊びくらすこゝが出来ないが、外國の子供はそれが出来るミ言はれる。果して然りミすれば、我が國の幼少の頃に於ける、自然界を通じての教育が、考慮されてゐないのによるのであるまいか。而も之が科學的なる發展への障礙にでもなるかミすれば、それは確になしミ思ふが故に、我が國に於ける幼少時の教育ミ自然界との關係には、今一段の考慮考察が加へられて然るべきものミ思ふのである。

童話

ニコくのお日あしな

槇 本 楠 郎

青い草の芽の出かゝつた芝生に、ほんのり春のうす日が照つてゐます。幼稚園のお庭では大勢の子供たちが、環になつたり、肩を組んだり、歌を唄つたり、ジャンケンをしたりして、面白さうに遊んでゐます。

さうかと思ふに、お猿さんのやうに ジャンケル・シメス 登によぢ登つたり、滑臺の上突つ立つてシッケイをしたり、追つかげごっこをしてお教室の前を走つたり、ボンミ窓にミびついで、中をのぞいて喚わめいたりする子供もあ
ります。

お教室の中では、風邪をひいた小さい女の子たちが六七人、みんなおさなしく小さい机によりかゝつて、かあいゝ指先をクレヨンに染めながら、お人形や、羽子板や、おまゝごこの繪を、いつしんに描いてゐます。

側で、じつと見てゐる五六人の男の子たちは、急に自分たちも描きたくなつて、顔を見合はせました。
するに、その中の一人の男の子が、

「ぼくたちも、なにか、かゝない？」

と云ひました。

みんな、「さんせい、さんせい！」と躍り上つて、よろこびました。

「いつたい、どこへ描くんさい？」

「さうだ、あの黒板がいゝや！ 廣くて大きいから——」

さう云ひながら、みんな正面にある黒板の前に走つて行つて、てんでに何か描かうございました。でも、まゝさう云ひながら、みんな正面にある黒板の前に走つて行つて、てんでに何か描かうございました。でも、まゝるゝとよく肥えた博ちゃんだけ、急にもぢくして、つまらなさうに、チョークを握つたまゝ、かう云ひました。

「ぼく、いやだ、かゝないんだよう」。

博ちゃんが、何を描いたらいいのかわからず、ぐづぐづしてゐるうちに、もうみんなは、いろいろな色チョークで、元氣よく描きはじめました。

一ばん左の、脊の小さい男の子は、爪先を突つ立て、手を頭の上の方に伸して、赤いチョークで、グイグイ、大きな飛行機を描きました。その次の脊の高い子は、青と黄とで、軍艦のやうなお魚さかなを描きました。そのほか、自動車や、兵隊さんや、電車など描く子もありました。

みんな描きはるゝ、後へよつて、ワイワイさわぎ出しました。

「だれのが、うまいかア？」

「ぼくんさい」

「あれエ！ あの赤い飛行機が一等うまいぞ！ なアんだ、あれ、ぼくのか！」

「いや、ぼくのお魚だい！」

みんな、自慢し合ひました。

女の子たちも、笑つて見てゐます。

するさ、脊の一ばん高い正夫ちゃんが、ふき氣がついて、博ちゃんに云ひました。

「博ちゃん何を描いた？ 君のがないぞ。するいや。ねえ、君たち！」

「さうよ。博ちゃんのないや！」

「君、かけないのか？ なんだ、かいて来いよ——いくちなしだぞ！」

「さうだ。かゝなけア、いくちなしだ！」

博ちゃんは、ほんこに何も描かなかつたので、みんなに騒がれ出すと、少しきまりが悪くなつて、泣き出しさうになりました。それに女の子たちも、みんな、博ちゃんの顔ばかり見つめてゐます。

正夫ちゃんは、博ちゃんが今にも泣き出しさうな顔を شدしたので、あわてゝ、かう云ひました。

「博ちゃんほうまいんだぞ、お帳面にかゝすミね。ねえ君、泣くなよ。ぼく、代りにかいてやるから。」

さう云ふが早いか、正夫ちゃんは黒板の空いてる所へ行つて、赤いチョークで、グル／＼／＼／＼、洗面器ほごの大きな日の丸を描いて、そのまはりに針のやうな、たくさん線をつけました。大きなまつ赤な、お

日さまが出来ました。正夫ちゃんはそのそばへ、「ノガミヒロシ」を書きました。

「さうだい、うまいだらう？　これ、博ちやんがかいたんだぞ。いゝだらう？　ね、博ちやん！」

正夫ちゃんもさう云ふに、赤い飛行機を描いた小さい男の子がまげ出して来て、白いチョークで、赤いお日さまに、笑つてゐる目や鼻や口を、す早く描き添へました。

「これでよしッ！　ニコニコお日さま、やあ、シッケイ！　こんにちはア！」

さう云つて、一ばん小さい男の子は、ほんまにシッケイをして見せました。そこでみんなも、大きなまつ赤の顔のニコニコのお日さまを見上げて、ニコニコしながら、同じやうにシッケイをしました。

「君もしろよ。君の繪だぞ」。

小さい男の子は、博ちやんにもシッケイをさせました。泣きべそをかいてゐた博ちやんも、仕方なしにニコニコ笑つて、小さい手を、自分の耳のそばへ挙げました。

(をばり)

幼児の流行病

醫學博士 田 村 均

一つから九つまで、此「つ」の付く間は育児上の難關である。こよく言はれて居りますが小兒科醫の側から見てもさうであります。幼稚園時代を終るまでは其前半でありまして後半に比べますと又遙かに子供の病氣の多い時代であります。この十歳迄の間に子供の罹る傳染病は随分數が多いのでその主なものが八種類ばかりもあります。其病名を擧げてみますと、麻疹(はしか)。百日咳。水痘(みづぼうさう)。流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)。風疹(かざはな)。デフテリ。猩紅熱。赤痢等で勿論さの子供も皆罹るさいふわけではないが多數の子供は十歳位迄の内に其數種類を経過するもので、二三に過ぎまるものは、十年間戰場を往來して彈丸を身に受けなかつたやうな幸福な者の例であります。從つて愛兒を育てる上に以上の病名の症候其他について大要を識つて置く事は大切でありまして、皆様の多くは既によく

御存じの事存じますが、もう一度記憶を新にして自分の知識を整頓して置くのも必要であり、役立つ日があることを存じます。以下順を追ふて概略を申述べることに致します。

1. 麻疹。

これは不思議な性質をもつてゐる子供の病であります。人々生れたからには一度は必ず罹る。子供の時代殆ど凡ての人が經過する病でありまして極く稀には成人してかゝる場合もあるが例外であります。一度罹れば先づ二度やる事は極く稀で一度麻疹にかゝるに體内に麻疹の病原體に對する十分な抵抗力が出来るので之を免疫と申しまして、體内に免疫體が十分に發生したわけであります。麻疹は大層規則正しい病氣で注意いたしてをりますと極く診斷のつき易いものであります。その當初は感冒に似てゐる點が多いので不用意であることが付くのが遅れ勝ちになります。小

兒科醫ミしては診察の折に常に頭から離れることのない病であります。規則正しい病であることいふことを申上げましたが先づ第一が潜伏期で之は十日間であります。人から人に感染いたしますが感染して十日間は潜伏期を申しまして

何の容態もなく過ぎます。十日間の潜伏期が過ぎるに發病いたしました第一期(カタル期)で四日間つゞきます、鼻汁が出たり、せきが出たり、くさみ、目やにが出る。つまり鼻咽腔や目の結膜にカタルが起る。中等度の熱が出る。感冒によく似てゐるが目やに、くさみの多い點に注意しなければならぬ。四日間のカタル期が過ぎるに第二期の發疹期に入ります。麻疹の本幕であります、耳の後あたりから顔面にかけてバラバラ赤い粒があらはれます。胸から腹部手足に皮膚の發疹がひろがり約三日間かゝつて全身くまなく發疹致します。其頃には始め發疹した部分の赤味が減じて黒味がゝつて來ます。發疹期は高熱で三十九度から四十四度にも達し皮膚ばかりでなく氣管枝の粘膜や腸管の粘膜にも發疹するので咳が烈しく下痢も起る。順調にゆくに發疹が出きつた頃から追々に熱が下り微熱となり三四日して平

熱となりて第三期落屑期に入り糠のやうに細かく皮がむけて來る。やがて平熱となり恢復期に入り、咳も減少し下痢も止り、食慾も増し元氣になります。發疹期には膀胱カタルも起るので尿の回数を増す事も多いのであります。

順調でない場合には以上の容態がこだわつて來て熱が下らない、例へば氣管枝カタルが肺炎に進むに膀胱カタルがひどくなり腎盂膀胱炎で高熱を發するに、中耳炎が起つたりなごします。麻疹で生命を奪はれる場合は過半数肺炎である。麻疹肺炎云つて治り難いのであります。

麻疹の看病で知つてゐなければならぬ最も大切な點は發疹期の最中に高熱でせきが多くても徒らに心痛する事はないが、發疹期が過ぎても熱が下らないで咳が多く、うなつたり(呻吟)、食慾がなかつたりする時、或は子供が少しも笑顔を見せない時には肺炎が残つたのではないかといふ事に留意しないに手遅れになる。看病は暖かくして無理をしないのが最も肝要であります。氷は一般に用ひないものと思つてゐてよろしい。

2、百日咳。

麻疹と共に子供の大厄である。近頃大に著目されて来た子供の結核の誘因をなすものはこの二つが最も多いのであります。大人の肺結核は子供時代の淋巴腺結核(腺病性體質)の延長であるといふ事が知られその小兒結核の誘因をなすものであるから大いに警戒して重くせぬやうに取扱はねばなりません。ところが一般に百日咳の診断確定が遅きに過ぎる傾向であります。百日咳のワクチン注射なども廣く行はれてゐるが初める時期が遅れるので効果が半減します。百日咳固有の咳込みにならない前にワクチン注射を勵行したいものであります。子供が咳が出て平熱であるのにだん／＼咳が多くなり夜間殊に多く、せきに力が入るさいふやうな時には豫防注射をかねて先づ百日咳ワクチン注射を開始します。咳の様子をみてゐて豫防だけに留める時には隔日三回注射で止め、若しだん／＼咳込むで来るやうになり顔を赤くして體を前にこゝめて咳入つたり咳の後嘔吐があつたり咳の時泡沫様の痰を口角に出して苦しがつたり所謂百日咳の第二期に特有な發作性、痙攣性、咳嗽、ミなつたら其まゝ注射をつゞけ、普通隔日に七回注射をしてワクチン

量を十分に達せしめます。近頃ではワクチン量が十分な上にも十分である方がよいと云はれてをります。發作性、痙攣性、咳嗽、さいふのは咳がひびきてひきつけるやうになり、間は何のこもないやうにしてゐて時々發作性に時を切つて咳込むから言ふので、咳込みの後にはヒイミながく息を引込みます、咳込むで出す息ばかりのあミであるから深く吸引するのであります。幼稚園の年齢になるミ吸引しますが赤チャンではむせるやうに咳込むだけなので軽いミ思つてゐる赤チャンを犠牲にする事が少なくありません、乳兒期の百日咳は特に恐ろしいものであるといふ事に留意しなければなりません。やはり肺炎でみられるので百日咳肺炎ミ云つて麻疹肺炎ミ東西の大關であります。百日咳は無熱であるやうだが毎日體温を測定するミ三四日に一回位は微熱があるものであります。發熱が續いたり殊に高熱であるのは悪い兆候であるから十分熱の原因をつきさめ早くに治療しなければなりません。百日咳にかゝつて半歲から一年位は風邪の度に又百日咳かミ思ふやうに咳が強くなる場合があります。何しろ子供の體が弱る病氣であるから大體に治

つてからも養生が大切であります。

3、水痘。

これは大多數軽くすむ病氣です。發熱と同時に身體諸所にバラバラに水疱が出来る、水疱は注意して觀察するに當り初第一に赤くなり、次にふくれて水をもち、水疱はうむで膿疱となり、黒くかせて痂皮(かさぶた)を作つて治ります。

水疱が新に出来て膿疱に變化して行く間は熱が出ます。時には高熱三十九度四十度も發するが二三日で平熱になつて全快します。餘病も尠い。潜伏期が二十日間前後もあつて長いので忘れた時分に兄妹に發病します。感冒時のやうな手當をして置けば治るが稀に重いものもあります。

4、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)

耳の下から顎へかけて唾液(つばき)を分泌する唾液腺が三種あります。耳下腺顎下腺等であります。多くは耳下腺が侵され一側或は兩側はれて發熱します。腫れ方はひじいが烈しい痛みや化膿する事は殆どありません。高熱が出るが二三日で下り、はれも數日で追々小さくなります。腫れ方も急だが小さくなるのも割合に早く、食事の時に多少いた

がる位であります。腫れの引く迄は安靜にしてゐて氷で冷すによろしい。これも潜伏期が長く二十日前後であります。

學丸が腫れる事があります。

5、風疹(かさはな)。

麻疹を誤られ易い、麻疹を二度やつたさいふ子がよくあるが一度は風疹である場合が多い。皮膚の發疹だけみて病名を定めやうとする爲に陥る誤であつて麻疹は經過は異なるが發疹の多寡や輕重で定めやうとするに誤る事があります。幼稚園の年齢に最も多い。麻疹を異つて四日間の有熱カタル期さいふやうなものはなく、家人は殆ど發熱と同時に發疹を認めるであります。食慾不進、不機嫌、惡寒等多少の前ぶれはあるのですが目立ちません。之を反對に言ふに發熱と同時に發疹するものは麻疹ではないといふ事を記憶しなければなりません。風疹も輕い病で餘病は殆どなく、潜伏期が長く、感染してから半ヶ月以上二十日前後して發病します。人から人に感染する點は以上の他のものと同じで潜伏期の終り頃から發疹期が感染力が大きいのであるから通學については何れも此點に注意し、お互に徳義を守る

やうにしなければなりません。發疹の消える頃には感染力も殆どなくなる云はれてゐます。麻疹の軽いのに似てゐるが麻疹のやうに萬人が罹るさいふわけではありません。6、デフテリー。

多くは扁桃腺を侵します。乳兒では鼻のデフテリーも比較的が多いが、幼兒では扁桃腺のデフテリーが益々多くなります。扁桃腺に白いものがつき、苔狀にひろがり、白く紙をはつたやうにデフテリー、性義膜、さいふものがついて特有な所見を呈するので、のどの診察さへ怠らなければ決して見落され得ないものであります。診断が確定すれば治療血清が發達してゐてその十分量を用ひれば神速の効果を呈するものであるから、今日文化の中心點に居住するものは決してデフテリーで愛兒を失ふやうな事があつてはなりません。稀に子供の診察の折いやがるから云つてのどの診察を拒まうとする人がありますが、のどの診察をしないなら子供の診察はしなかつたのと同然であるを考へて頂きたい。デフテリーで死亡する第一歩はそこにあるのです。子供ののきをみるさいふ事は熟練してゐてもひびくあばれた

り光線が十分でなかつたりするに割に困難である事があるから十分に徹底的にのどの奥までみるさいふ事が何よりも大切で、親としては十分にみせるさいふ事を忘れないやうにして頂きたい。デフテリーはのぎにそれだけのひびい變化があるが、痛みは訴へるには限らない、初めの間は訴へないのが普通で扁桃腺だけの變化の間は發熱以外何の容態もありません。扁桃腺周圍炎を起すに至つて痛むで來るもので、犬の吠えるやうなせきなどをあてにするのは大きな手遅れであります。デフテリーは一瞬を争ふ病のやうに考へる人が多いが發見が遅いからであります。發熱も亦普通の感冒性扁桃腺炎のやうに高熱でない場合が多い、高熱のこももあり微熱のこももある。一瞬を争ふものでない云つたがゆる／＼してゐる病でもない。ある時期を過ぎるに急轉直下病症が悪化し、その毒力は心臓及び血管を侵して如何にもする事が出来難くなり、十分量の血清も遂に効果がなく、意識鮮明のまゝ冷汗を流して死に行く事があります。何病でも手遅れは悪いがデフテリーに於て殊になさけなく感じます。それは治療血清が進歩してゐるからであ

ります。近頃では治療血清の他にデフテリー豫防液が廣く用ひられるやうになり、三回の小注射で認むべき効果があらるのであるから必ず勵行すべきであります。デフテリーに罹つて治つた者でも稍々時を経て醫師に相談して施行して置くのがよろしい。

7、猩紅熱。

幼稚園から小學校時代に多くて困る病氣であり、以上のものミ異り法定傳染病でありますから、法律で届出の義務があり、傳染病室で隔離治療をしなければならぬので家庭で治療する事はゆるされない。死亡率は或書には三〇%とされてゐるが今日では死亡率は少なく三%位のもの即ち百人に三人位のものであると云はれてゐるが、傳染病の病毒には消長があり、悪性に傾いて來る事もあるから往時恐れられてゐた病は決して輕々に考へる事は出来ません。時時電撃性猩紅熱と云つて發病間もなく意識瀰濁、そのまゝ、兩三日で死亡するものがあり夢のやうであります。幼兒の恐ろしい病は疫痢ばかりではない。それ程でなくとも中毒型猩紅熱と云つて高熱意識不鮮明となり隨分心痛する容態

に陥るものがあります。輕くても三週間安静臥床が建前で多くはその前半が有熱、後半が無熱又は微熱であります。無熱になつても發病から日の淺いものは床についてゐなければなりません。病毒は未だ血中から消失しないので安静をかくと頸の淋巴腺が腫れたりする事が多い。安静を守つても三週間前後して淋巴腺が腫れたり、腎臓炎が起つて血尿さなるものも少なくありません。發病當時の容態は發熱と同時又は十數時間遅れて皮膚に赤い細かい發疹があらはれ胸から腹部及び兩下肢の上方に特に目立ちだん／＼全身にひろがる。發疹が密生するミ皮膚が全體に紅くみえる。顔面も紅潮して鼻の下から口のまはりが三角形に白くぬけて見える。數日後に發疹が消えて熱が下りかけるミ早いものでは皮がむける、ボロ／＼大きくむけ、手足臀部がひざい。隨分おくれむけるものもあります。落剝期と云つて次で恢復期に入り食欲も増進して全快いたします。

8、赤痢。

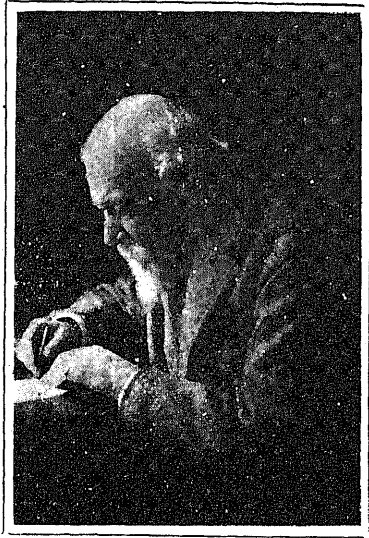
赤痢についても申し上げたい事が多いが餘り長くなるから極く簡単に致します。我國では相當の家庭でも隨分赤痢に

かゝる率が多いが、大體に以上の病ミ異つて飲食物を注意してゐれば防ぎ得るものでこの點チブスミ同様であります。

幼兒にもチブスもあります。赤痢は子供の方が大人より重く、チブスは反對に子供では割に軽くすむ傾向があります。赤痢で注意すべき點はさういふ場合に生命を奪はるるかさいふミ、便の回数が多いさいふことより、發熱の持續するものが悪いのであります。當初には殆ど皆高熱であるが適當の手當により間もなく平熱さなるものは輕いので便の回数が多くても死亡する事は稀です。一度下つた熱が再び高熱さなつたり、高熱が當初より依然として持續するものは死亡型のものであります。その中間のもの、中等症のものは一度下つた熱が又出るが三十八度前後にさゝまり約一週で平熱になり、手當がよければ大抵は死亡しません。便の回数は二十回位迄は随分粘血便の見目が恐ろしいやうでも大丈夫であります。幼兒期で一日三十回以上も便の回数のあるものは熱が低くても重症であります。一日五十回さいふやうなものもあります。それでも直るが著しく衰弱するもので、さういふ重いものは食欲ありません。然

し高熱が持續して中毒症狀の強い疫痢又は疫痢様のものよりは望みが多いのです。

治療は食餌療法が治療の中心點であるから病の輕重に應じ適當量の食物を定め、量も食物の種類も定められた通り嚴守する以外によい方法はない。この治療の中心點をはずせば如何に服藥注射等其他の手當に頼つても無駄である。餘り長時に互り極端な絶食もわるいが食物の量の多すぎるのは大いに悪い。注意すべきは禁食、絶食が徒に長時に互らぬやうにするこゝで、一定時の禁食後は少量の食餌より始め徐々に増量する事で、病症の輕快に赴いてゐるのに徒らに恐怖して同一減食に止るのはわるい。食事の回数を増し一回量を減じ便の回数の減少と共に漸増するのが最も肝要であります。



R. Browning

『ピパが通る』(Pippa Passes)は一八四一年から四六年に亘つて公になつた八部の詩集『鈴と柘榴』(Bells and Pomegranates)の第一部をなす優れた作品で、「朝」「晝」「夕」「夜」の四段から成立する千七百二十二行の劇詩である。ブラウニングは『ソーデロ』(Sordello)を創作するため一八三八年の春、態々イタリアへ出掛けたが、この劇詩は、その折の副産物で、執筆されたのは翌年の春から夏にかけてのこころと思はれる。ブラウニングは或日、ロンドンの南郊ダリッジの森を獨り逍遙してゐた。「もし人生をかういふ風

ピパの歌

曾根保

に唯一人過ぎ行く者があつた。微賤の身故自分の足跡をこの世に残すまいふこころは覺えないにしても、此の一步毎に、無意識の中に、而も永久的な影響を周圍の人々に投げかけるこころが考へられないであらうか。かうした幻影が詩人の胸中を往來し、遂に具體化して可憐な少女ピパ(即ちフェリッパ)になつたのである。この少女を主人公とする『ピパが通る』は作者の最も好んだ一篇の由であるが、上演に適しないにしても文學作品として非凡のものであるから、美しい日本語の正確な翻譯が出現する日の近からんこ

さを筆者は願つて已まない。今はたゞ極く荒筋を紹介して置くにミヤめる。

ピバは北イタリ、アソロの町——ヴェニスの西北三十

哩——に住む少女で、早くから両親に別れ、絹織工場に傭はれて、一年三百六十五日少しも暇の無い體であつた。今日は元日で、一年一度の公休日である。夜の明けるのを待ちかねて、飛び起き、身支度をしながら、この吉日を最も有益に利用しようと思へる。

即ちアソロの町で一番幸福な四人を算へ上げ、それぐ朝晝、夕、夜の四回に分け、自らその人々になつたつもりで、

今日一日を楽しく過ぎさうといふのである。向ふの丘の中腹に華美をつくした家が見える。絹織工場主ルカの邸宅で

ある。主婦オチマは良人の有る身でありながら、ドイツの



音楽家シバルドミ道ならぬ關係を結んで快樂に耽つてゐる。ピバは氣高い愛の無いところを去つて、高尚な愛を求めようとする。フィネはフランスの彫刻家ジュールミ婚約の間柄であつたが、晝にはオルカナの谷に面する新宅へ

來るこゝになつてゐる。しかし若夫婦の關係必ずしも安心の出來るものではない。生命のあらん限り變るこゝのない

親子の愛の頼母しさには及ばない。憂國の志士ルイギは夕方母親に會ひに忍んで来る。戀人の關係よりも穩健で、又朋友の間よりも情愛が濃かい。自分は母の顔も記憶せず、父親も知らない。出来ることならルイギの身になりたい。けれども、更に好ましいのは神の愛である。町の教會堂に隣接するお邸に今宵信徳高い監督ベシヨフが來られるまいへば、せめて一夜なりと神聖な祭司の身になつてもみたい。

一、「朝」——かう思ひ續けて、ビバは先づ朝早くオチマの家の方にやつて來た。不義の關係は遂に年老いたルカを殺害するまでになつた。それは昨夜のこゝである。屍を前にして、さすがシバルドも良心の苛責に耐えず、氣も弱くなつて、恩人を手にかけて罪の恐ろしさ、後悔の色が見える。けれどもオチマが或は勵まし、或は賺して、不義の快樂を食つた昔の夢を思ひ出させて頻りに氣を引き立てたので、シバルドも心を取り直し、互に變るな變らじと言ひ交はしてゐる時、外をビバが通る。無邪氣に聲も清らかに、かう歌ふのである——

時は春

日は朝あした

朝は七時、

片丘に露の珠

雲雀飛び

蝸牛茨が枝に、

神、天にゐます——

世はなべて事もなし。

これを聞いたシバルドは竦然として飛び上つた。「神天にゐます」の一句は雷の如く響いた。良心が目覺めたのである。オチマの醜惡さに顔をそむけ、オチマを憎み、呪ひ、間もなく自殺する。姦婦オチマも今やすべての罪を己が身に背負ひ、シバルドの爲に祈を捧げ、「神様、わたしでなく、彼を御憐み下さい」と言つて、戀人の後を逐うて自害した。即ち、少くもビバの歌は二人の靈を救つたのである。

二、「畫」——少女ビバはこの家の出來事を知る由もなく、歩を轉じ、オルカナの谷を越えてジュールの家へ行く。

ジュールは、ヴェニスから來てゐる大勢の美術學生に瞞されてフィーネと結婚するやうになつたのである。こいふの

は、學生達はフイーネの戀文を擬造して、文學に秀でた世にも稀な才媛である如くフイーネを仕立て、遂に結婚するまでに奸計を廻らしたのであつた。ところが、式場から歸つて來る之間もなく、

事實が曝露した。花嫁

フイーネは無教育な賤しい身分の者で、趣味などもお話にならない程度であつた。ジュールは腹立たしさの餘り花嫁に若干の手切金を與へ、すべてを解消するを宣言した。丁度その時、外をビバが通つて行く。昔、或る宮中に仕へる小姓が、女王を戀ひ慕ひ、真心を表はし、その愛を促すに足る理由を作り出さうと苦心するけれども、何一つ不足の無い御身分故

Song from "Pippa passes".

*The year's at the Spring,
The Day's at the dawn;
Morning's at seven;
The hill-side's dew-pledged:
The bee's on the wing,
The mail's on the thorn:
God's in his Heaven —
All's right with the world.*

Robert Browning.

Paris, October 17. '58.

うにもならず、悶え苦しんだといふ話を骨子とした歌を歌つた。ジュールは之を聞いて自分の心に新しい光を感じる。こゝに自分が助けなくては生きて行けない女性がゐるのだ。今自分が愛の手を差しのべ、優しく勞つてさへやれば生きて行けるのだから、すべてを諦めよう。ジュールはかう考へてフイーネを許す。ピバの歌は又しても夫婦の和解に役立つこゝが出来たのである。

三、「夕方」——愛國者
ミ自ら標榜するルイギミ
いふ青年が、アソロの町
を見下す丘の中腹にある

樓上の一室で母親を語り合つてゐる。オーストリアの皇帝を暗殺する陰謀に加擔し、そのためウイennaへ出立する時機

が今宵に迫つてゐることを打ち明けるに、母親は大いに驚き、百方言を盡して暴擧を思ひ止まらせようとする。ルイギはその爲志氣が挫けて、少くも出立を明朝まで延ばさうと思案する。其時、ピバが古の明君を賞揚した歌を歌つて家の前を通る。之を聞いたルイギは「あれは神の聲だ」と言つて、愛國の熱情抑へ難く、急にそこを飛び出して何處までもなく去つて行く。従つてその夜逮捕に向ふ筈になつてゐた刑事の一隊の裏をかいて、旨々逃げて了つたのである。思ひがけぬ救ひの手は、ピバの歌によつて來たのであつた。

四、「夜」——日が暮れて、ピバは愈々最大の理想の人物に近づかうとしてゐる。即ち、監督ビシヨッフの泊つてゐる邸の近くに來る。内では監督が人拂ひをして執事ミ何事かを密議中である。この監督、實はピバの叔父なのである。執事は、ピバの父親の死にも何か關係があるらしく、死後に遺産を横領してゐるばかりでなく、ピバをも無きものにして後顧の憂ひを断たうとさへ監督に提議した。その方法として、一英國人を語らひ、甘言を以てピバを墮落させ、ローマに

誘ひ出して賣り飛ばし、悪い病に罹らせて三年のうちに生命を奪はうといふ世にも怖ろしい悪計をたくらんだ。監督の面には同意の色が見えようとしてゐる。丁度その時、夜の寂莫を破つて、ピバの歌が聞えて來る。「突如、神様は私を召された」といふ結びの一句に監督の良心は目覺めた。早速召使を呼んで、悪黨を逮捕させた。ピバは何事も知らずして家路につき、自分の部屋に歸つて行く。ピバは心の中で、オチマ、ジュールの花嫁、ルイギの優しい母親、或は監督ミ、次々にそれらの人物になりすましてゐるが、夜が迫つて來るに共に、果して自分はこれらの人物にぞれだけ近づくことが出來たらうかミ考へ始めた。そして眠に就きながら、かう口ずさむのである——

すべての奉仕は神様の眼には皆同じだ——

最も善いものも悪いものも、我々はすべて神様の操られる人形に過ぎない。

後の者も無く、前の者も無いのだ。

劇詩『ピバが通る』は以上で幕ミなつてゐる。餘りに簡単な紹介で、眞意が通じないかもしれないが、こゝでは以上

に止めて、所謂『ビバの歌』に立ち歸る、ことにする。

詩型はアナピースト(anapest 抑揚格)を基調とし、

第一の韻脚(foot)は抑音を一つ略してアイアンビツク(iambic)になつてをり、第三行と第七行とは抑音を二つながら省略して揚音一つの韻脚になつてゐる。今この詩をscanしてみるに次の如くである。

The yéar's | át the spríng
Añd dáy's | át the mórn ;
Mórn | ñg's át séven ;
Thě híll- | síde's děw-péarled ;
Thě lárk,s | òn the wíng ;
Thě snáil's | òn the thórn :
Gód's | ñn his héaven
All's ríght | wíth the wórlđ !

押韻は spring, wíng ; mórn, thórn ; séven, héaven ;

pearled, wórlđ 等、極めて規則正しい。尙、一三字句の解釋を施せば——s はすべて is の略、mórn は morning

の詩語 'dew-pearled is adorned with dewdrops as (if) with pearls of dew' is on the wing は飛んでゐる、thorn は hawthorn (山櫨)の略である。

原詩に用ゐられてゐる言葉は割合に單純であるから、意味上困難とするところは殆んど無く、又詩型もよく整つてゐるので、朗讀してみれば分るやうに、極めて力強い音調の美が感じられるが、いざ日本語に翻譯するに當り、相當に手がかるのである。元來英語の表現が情緒的といふよりも寧ろ論理的、理智的であるため、力強く簡潔な點は一特長であるにしても、その論理的表現を情緒的表現で以て翻譯し得る方法が発見されない限り、立派な翻譯は斷念するよりほか仕方がない。所詮は兩國語の表現形式の相違である。だから、『ビバの歌』の名譯として喧傳されてゐる上田敏氏のものも、實は原詩と對照して味はつてみるに、全然別個の感じがするのである。ぐんぐん高まつてゆく原詩の上昇リズムは力強いが、譯詩には詠嘆的な弱さがあつて、原詩のもつ意味の強さ、即ち最後の「世はすべて事もなし」らしい感じが迫つて來ない。原詩の is の短縮形は

が文勢を甚だしく引き締めてゐるのに反し、譯詩では「
を用ゐて別な味はひを出してゐる。以上の相違は、コロン
ビア・レコードの「ビバの歌」(原詩)を聴いて、日曜學校で
兒童の歌ふ邦譯の同じ歌を考へ、合せてみれば、容易に合點
の出来ることである。

過日、筆者は自分の受持のクラスに「ビバの歌」の邦譯を
課して、三十五種類の翻譯を得た。始めの三行は大同小異、
殆んど問題はない。即ちそこまでは、上田敏氏の譯に特に
敬意を表すべき理由はなく、誰が譯しても、先づその邊の
ところまでは可能だといふことになる。第四行の「片岡に
露みちて」は「片岡は露の珠」にしても決して悪くはない。
しかし「揚雲雀なのりいで」の一行に到つては凡手の能くす
るところでないことがわかる。次の一行、「蝸牛枝に這ひ」
の「枝に這ひ」は原詩 — *s on the thorn* の譯で、實際は、
字句の解釋のところで述べたやうに、「山樅」^{さんびやく}にあるべきで
あらうが、「蝸牛はさんざし」では、さうしてもおさまら
ない。又「蝸牛は茨」も苦しい。結局原意を碎いて、「枝
に這ひ」を落ち着かせることになつたものと思はれる。前

に掲げた七種の翻譯の内、内村鑑三氏の「叢林に戯る」や、
中川氏の「角を出し」は取るべきでない。最後の二行は上田
氏の譯で、「神空にしろしめす、すべて世はこどもなし」こ
なつてゐるが、前半の「知ろしめす」こいふ支配の意味は
稍々強過ぎるから、單に「まします」でも十分である。しか
し後半の *All's right* は「平穩無事」の意味で、時々 *All's*
well を間違つて引用したり、福原麟太郎氏が何處かで「す
べて世はこどもなし、こいふ消極的な解釋よりも、むしろ、
世の中の事はすべてめでたい状態にあるこいふ積極的な意
味に取つては如何であらう」を言はれてゐるが、そのやう
に取るのは行き過ぎを言つてよからう。前回掲げた譯の
内、「此世の萬事可なり」、「世は平和」、「世界はすべて是
なり」、「この世の事皆正し」、「萬物はげにも正しく世を渡
る」、「凡ての物は世界を調和せり」など、何れも上田氏の
「すべて世はこどもなし」に遠く及ぶところでない。要する
に、筆者の手許に在る四十幾種かの翻譯は、それぞれのう
ち取るべき佳句も無いではないが、結局上田氏の五音節
を重ねた譯が韻文として形が整つてゐるばかりでなく、す

べて原意に即しつゝ、「片岡に露みちて」さか、「揚雲雀なのりいで」さか美しい言葉を用ひ、又「蝸牛」さいふ長い五音節の一語に對して「揚雲雀を鉤合せたなご、その技巧に優れたところがあつて、到底凡庸の徒のよくなるどころではない。尙、譯詩の補遺として茲に支那語譯を掲げて置く。

歲在陽春，時在清晨，晨在七時，山邊滿灑着露珠；
天鷲在飛；蝸牛在荆棘；上帝在上——萬物各得其所！

梁遇春譯

『ビバの歌』、特に最後の二行はブラウニングの樂天主義を説く評家が必ず引用する句であり、又同時にブラウニングに盾突かうとする人々が好んで引き合ひに出したがる歌である。こゝに代表的な攻撃的文章がある。

「この唄は平凡な朝景色を羅列し、その結論として極端な樂天觀を告げてゐるに過ぎない。しかもその樂天觀は人生の事實を凝視する者をして「言何ぞ容易なる」に歎ぜしめずにはおかないものである。加之、「The snail's on the thorn:」の thorn は morn の押韻上の必要

に迫られて用ゐた言葉かも知れないが、刺、野茨、又はさんざし、らびれの意味にしては、「All's right with the world」さいふ結論に反する事實を擧げることになる。もしこの唄が不義の戀に溺れてゐた Ottilia 及び Sebald を悔い改めさせたさいふ道德上の效果によつて批判する人があるならば、それは文學の intrinsic value と extrinsic value とを混同してゐる人である——

齋藤勇博士著『英詩概論』一三一頁。

私は恩師のこの一文を讀んだ時、全く驚いたのである。尤もこの八行の詩が偉大な英詩の一つであるに主張した人もなく、私も極く優れた詩だ、とは言はないが、八行の中に春の景色を巧みに詠んだ良い詩だ、と考へてゐる。調子も、前に述べたやうに、朗らかで力強く、唄にしても良く整つた可なり良いものだと思つてゐる。遺憾ながら、齋藤博士の批評は、私から見るに全く當つてゐないと言ひたい。お互に趣味の問題だと言へば、それ迄であるが、第一に、「平凡な朝景色を羅列し」を言つてゐられるに對して少々反駁を加へたい。原詩の始めの三行には、少しの文飾も無く、

簡潔に春の朝が述べてあるが、これらの言葉のもつ内容も音調から何物をも感じないことすれば、島崎藤村先生が「春」の一語にすら新鮮な意味を感じられた、敏感な詩人のその境地に同感を感じせらるべくないことでは、詩を語り、歌を味はふなご、凡そ縁の遠いことこのやうに思はれる。尤も散文的なやかましい批評家は、かうも言ふであらう——アソロの町に於いては、一月元旦の七時には未だ太陽は遙か地平線下にあるのだから、ブラウニングの詩は偽虚に過ぎない」云。一步譲つて、始めの三行に何らの感情をも覺えない人があるにしても、次の三行に至つて春の姿を心に描き得ず、*dew-pearled* の一語にさへ美しさを感じない人が果してあるであらうか。少くとも、眞珠のやうな朝露を一度でも見たことのある人ならば *The hill-side's dew-pearled* の一句、又千金の値ひがある。蜘蛛の巣を銀絲で飾る朝露は全く驚異であるが、路傍の芋の葉、露の葉に宿る白金の珠を見つけてさへ、自分のその日の幸福を思ひ、心して手に掬ひたい氣持が湧くものである。或は、きら／＼輝く眞珠の玉の散ることを恐れて、手／＼も得出さぬであらう。」揚雲

雀』といふ言葉は立ちどころにシェリーを偲ばしめ、卑近なことではあるが、武藏野の、又故郷の青々とした麥畑を思ひ出させる。次の第六行に至つてはブラウニングの觀察眼の鋭敏さに驚歎せざるを得ない。私には次のやうな経験があつて、殊にこの一行を貴いものに思ふ。家の子供がまだ三歳の頃、朝の日の出前、祖母はきまつて三十分間位子供を連れて散歩をしてゐた。子供は必ず小さい蝸牛を二つ三つ握つて歸つて来て、庭の木の枝にしまらせる。或日私が代つて子供を連れ出した。するま子供は「でんでんむしむし」をいつて私に行くべき方向を教へる。行つてみるま、枳殻の牆根に何百といふ蝸牛が嬉々として這つてゐるではないか。生れて始めてみる蝸牛の大群に、又その活動振りに驚きの眼をみはつた。すばらしい光景といふより外言ひやうもない。ところが不思議なことに、それは日の出の數十分間に限られてゐることで、たゞへば晝か、夕方まかに行つて見ても、恐らく一つの蝸牛さへ姿を見せない。私は數日續けて觀察してみたが、ブラウニングの『ピバの歌』を思ひ出して、*The snail's on the thorn*. の句を繰返し繰

返し口ずさんだ。右の経験から考へても、齋藤博士が「thorn
が刺なら這ふ蝸牛が困るし、もし又さんざしなら、さんざ
しが迷惑するのだから、All's right」と言へない。結論
に反する事實だ」と言はれるお言葉は極めて散文的な考へ
方を示すばかりでなく、全く天然の事實に反すること、
議論とは成り難いのである。尙又、文學の intrinsic value
と extrinsic value の二つまで述べられてゐられるけれども、
この詩が劇の中に挿入された小唄であり、すべてが藝術作
品の部分であるといふことを思へば、最後の二行も「極端
な樂天觀」と極めつける迄のことも無いし、「人生の事實を
凝視する者をして」「言何ぞ容易たる」と嘆せしめずにはおか
ないもの「なごこむきになることも要らないやうに思はれ
る。團十郎が片手で山門を差し上げるのを見て、兩手で擧げ
なくては無理だ」と批評した人に、兩手でも一軒の家を擧げ
る事は出来ないのだから、片手で示す方がむしろ藝の上か
ら眞實だと言つた逸話がある。味はふべき言葉である。私は
ブラウニングを徒らに辯護したのではない。この詩人には
優れたところも多い代り、藝術家としての短所も多いこと

を認める。現に「Pippa Passes」の詩の標題なかに
は少からず不滿を感じる。尤も「父歸るだまか」會議は踊る」
だまか此の種の標題もあるにはあるが「Pippa Passes」に於
いて頭韻と音調を除くこと、字句に何さなく曖昧な感じがま
つはつてゐて、むしろ一目見たところでは「ピパ山道」とい
ふやうに思はれはしないだらうか。しかし、「ピパの歌」を
「平凡な朝景色の羅列」と言つて片づけるのは當を得ないこと
思ふ。餘りに力強い言葉で固められること、何だか縹渺たるこ
ころが無いやうに思はれ、親しみを感ぜない人もあらう。
雰圍氣を好み、さびしさを愛するやうな人には、次のやう
な詩は、同じ羅列でも案外受けるのではあるまいか。

池の面に四羽の鷺あひろ。

彼方には草の堤。

春の青空。

浮ぶ白雲。

あゝ、さゝやかなることなれど、

年毎に想ひぞ出づる、

涙もて想ひぞ出づる。

——アリンガム——

新しい又リエ帖について

及川 ふみ

ぬりゑの畫の新らしいのをかきました。新らしいもの必らずしもよいものではありません。たゞ幼児三日頃一緒にぬつて見て具合の悪いものはごりのぞき、面白がつたものはごり入れて二冊の綴りこいたしました。

これは本體としては色鉛筆で輪廓の外に、はみ出さない様に注意深くぬるさいふであります。そのため一つの色でぬる色の大きなごも幼児の力を考へて適當にいたしました。

畫の材料も幼児が日常手近かに見てゐるもの、興味のあるものなごごり入れて觀察このつゞきあひも考へました。ぬり方について一枚づゝに説明するまでもないものもありますが一通り頁をくつて書いてみませう。

1

ヒノマルノハタ

日の丸は赤、金の玉は黄色、竿の白いところは緑を薄くぬる

ヒヨコ

くちばしは赤を薄く、からだは全部黄色

キシヤ

機關車の煙突、かまは黄色その他は茶色、客車は緑、赤、青、紫配合のよき色を一車づゝぬる 車はいつれも茶色、

マリトコマ

ゴムマリは黄色の地に赤を縦横に細くぬる、コマは外から緑、青、黄の三色にぬりわけ

キンギョ

大きな金魚は白地に赤の斑のあるものにしてぬり、小さい方は赤無地にする。

ウチハ

丸ウチハは白地のところへ自由畫をかゝせる。四角の方は茶色にぬる。竹の骨ミ柄は黄色にぬる

トマト

トマトのへたはみどり色に、その他は赤を大部分にして一部分黄色を少しぬる

アサガホ

花の色は紫、赤なご幼児のこのむ色にぬる。莖ミ葉はみどり

ホウゾキ

橙色の色鉛筆のなき場合は茶色をぬつて、その上に赤をかける、クレヨンの橙色をぬつてもよい

ウサギトカメ

ヒノマルの旗だけは赤ミ黄色の色をぬり、龜ミ兎は墨をぬる。

墨でぬる事は少しむづかしいやうであるが少人数づゝかはるゝ保姆の目のミゞくミゞころでぬらせるミ上手にぬれるものである

カキ

カキをぬる時には實物があればそれをみせてぬるこよい。莖は茶色、葉の緑

サクラ モミヂ イテウ

それゝの葉の實物が得られゝば、それを見てぬらせるサクラモミヂは赤、黄、緑、の三色にぬりわけ イテウは黄色にぬる。

アネサマ

顔には頬紅ミ口紅をつけ、かんざしその他のかざりは赤、黄、青なごでぬる。臺の麥わらは黄色に紐は茶色にぬる

ダルマ

赤ダルマミ金ダルマで赤ミ黄色でぬる

目玉は黒くいれる

ハネ

ハネの實物を見てぬる。多少形はかはつてゐてもよいのである

フクジュソウ

花は黄色、苞は茶色、少し出てゐる葉は緑

フウセン

フウセンは配合のよい三つの色をぬる。子供の洋服は幼児のすきな色にぬらせる

オヒナサマ

親王様は青に、内裏様は赤に、臺の上は緑に前は黄赤緑の三色に染めわけける。

モヨウ

蝶の色、地の色は幼児のすきな色にぬる。

ラッバスイセン

三月の終には花屋の店頭にならべられるやうになる。ラッバスイセンを花瓶に二三輪さしてこれを見てぬらせる。

2

テフトフトタンポポ

黄色い花に黄色の蝶、莖の根元を少し赤くぬるその他はみどり色にぬる。

コヒノボリ

竿は緑色に玉ミ風車は黄色に、吹流しは五色にぬりわけ

る。真鯉の方は各鱗の半分は青でぬり緋鯉は全部赤くぬる眼は青黄色でぬる。

アヤメ

花びらの直下を黄色に他は紫にぬる

グンカン

グンカン旗は赤く、軍艦は墨で黒くぬる

ネッタイギヨ

大きなお魚は青ミ紫に、小さいお魚は赤くぬる

スイレン

花は赤又は黄色にぬる、花の心はいつれの色にしても黄色にする

タマムシトテントウムシ

タマムシは緑ミ紫の縞にぬり、テントウムシは丸玉を赤くして地は墨でぬる

ヒマハリ

花は黄色には、心は少し緑、茶色をませてぬる

オツキサマトリス

オツキサマは黄色に、リスは墨でぬる。木の枝は茶色に

葉は緑

オニンギヨウ

幼児の好きな洋服にする。ぬる場面が多いから模様にする方がよい。

オモチヤノキシヤ

形がかはつてゐてもよいから、おもちゃの汽車を見せてぬらせる。

カラスウリ

實は橙色のクレヨンか色鉛筆ならば黄色ミ赤をぬる

タヒゲルマ

タヒは赤く、臺の上はみづ色に、車ミ紐は黄色にぬる。

場面が多いので二度に分けてぬるこよい

カミフウセントオテダマ

フウセンは赤ミ黄色、黄色ミ紫なミミ二色配合のよい色
をえらんでぬらせる。お手玉は又別の二色をぬる。

カサノモヤウ

これは幼児の好きな色にぬらせる

オスマウ

からだはうす赤に、化粧まわしの房は黄色に、その他は
随意にぬる。中央に角力の名をかくこよい

リンゴ

リンゴは赤く、ナイフ、ホークの柄は緑ミ黄色にぬる。

お皿の筋は青くぬる。

スイセン

實物の花を見てぬる。

オヒナサマ

これは普通によくあるものであるから適當の色にぬる。

トラ

トラはその線の上もかまはず全部黄色でぬりつぶす。

山下俊郎氏著

一人子の心理と教育

一人子が何かしら教育上ハンディキヤップをもつてゐることは、問題の子どもについて我々が「あゝ一人つ子ですか、道理で」といふ場合が大變多いことでもわかることである。とに角何かしら教育上問題となる一人子について本書は充分に周到に調べ、科學的に、しかも判り易く説いてある。

序に於て著者の言つてゐる「一人子の問題は單に一人子の親のみの問題ではない。理論的に言つても、また實際の教育の立場から言つても一人子の問題は同時に兒童一般の研究と教育に對して非常に大事な意義をもつてゐる」といふ主旨で一人子をあらゆる角度から研究されてゐる點、一人子を研究することによつてきようだいといふものゝもつ環境を明にし、子どもの社會生活の問題に説き及ん

でゐる點、本書の特長であると言へよう。

教育環境學に就いての著者の造詣の深さは一人子の問題の發生、一人子研究の理論的及教育的意義の説明に於て、新鮮である。一人子の心理については心理學的にポハンノン、ネーテル兩氏の研究を主とし、又廣汎に亙つて文獻をしらべシュメイニングのリストをあげて一人子の問題性を示し、更に一人子の長所をも種々な研究を例にしてあげ、スタンレーホルルの「一人子であることはそれだけで一つの病氣である」といふ言葉はそのまゝ受け入れるわけにはゆかないとし、どうして一人子に問題の子どもが多いかを周到に検討してゐる點、一人子の爲に大いに同情的であるとも言へ、良心的であるとも言へよう。

斯う表裏、縦横から一人子を検討し、さて教育篇に於て一人子の教育について述べてゐるところを見ると、一人子の環境のうちには問題を發生させる條件が、その様な危険が多分に含まれてゐる。それを充分に理解し、問題に陥り易い危険か

らさなければならぬといふ冒頭の態度と社會生活の問題から考へてゐる。教育態度として子ども自身を活動させること、獨立性の涵養、過重刺戟への警戒、訓練の確立、經驗の尊重といふこと、又

社會生活の問題として一人子に缺けてゐる子ども同志の社會生活、子どもを教育するには子どもを以てせよといふこと等は、決して一人子にのみ重要な問題ではない。我々の深く反省させられる所である。そのあと一人子と幼稚園の項をよみ、最後に一人子の教育の原理として「經驗を尊重せよ、そして統制のもとに」「子ども同志の社會生活を尊重せよ」といふ結びをよんで、これ等すべては一般子どもの教育に於ける原理でなければならぬといふ感じなのである。一人子の親は勿論であるが子どもを育てる立場にある人は誰でも讀んで置き度い書物であり、興味深くよめる本である。(清水光子)

東京神田駿河臺
刀江書院 五十錢

大いそぎ大いそぎ

— 復誦用おはなし —

新 庄 よ し こ

—

大いそぎ 大いそぎ

つばめが一羽飛んで来ました

鼠がチュウ／＼駈け出して来ました

犬もワン／＼駈け出して来ました

猫もニャア／＼駈け出して来ました

蛙もピョン／＼飛んで来ました

燕さん燕さん ぎちらへ 大いそぎ大いそぎ

鼠さん鼠さん ぎちらへ 大いそぎ大いそぎ

犬さん犬さん ぎちらへ 大いそぎ大いそぎ

猫さん猫さん ぎちらへ 大いそぎ大いそぎ

蛙さん蛙さん ぎちらへ 大いそぎ大いそぎ

みんなで川のみころへ来ました

つばめは飛んで行つてしまひました

鼠さん犬さん猫さん蛙は川の中にぎぶんぎ飛び込んでしまひました

右のお話をつい近頃復誦用として使つて見た。年少組ではあるが、もう第三保育期にもなつてゐるので、やすくミ覚え込んでしまつて、大層これを喜んでゐる。これは内容が面白くて、口調がよく、而かも動作の繰り返しで作られてゐるので、復誦用としては最もよい條件をみんな具へ

てゐるお話である。

二

幼児と共にこれをどういふ方法で復誦するかといふことは、きりたてゝむづかしいことは無いが、次のような順序で私は試みて見た。

まづ先生がすつかり覚え込んでしまつてから始める。その上で第一日には三度位續けてゆつくり幼児に話して聞かせる。これを聞きながら幼児が、めいめい自分の頭の中でこの話の筋をはつきり把握出来るやうに、先生はさう考へながら、言葉をはつきり、少しゆつくり。その上で。

「こんどは、あなた達みんなでこれをお話して見ませうね。大きいお聲でね。では始めますよ、つばめが一羽飛んで來ました。みんなでこの通り云つて御覽なさい。」

幼児一同「つばめが一羽飛んで來ました」

先生「鼠がチュウ〜 駈け出して來ました」

幼児一同「鼠がチュウ〜 駈け出して來ました」

斯のようにして、第一回は先生のことばを、すぐ折返し復誦させておく。そしてこの翌日にすぐ第二回をつゞける。こ

の場合三日位間をおいてから第二回にする。何分幼児の事にて、話の筋なり、ことばなりが、又耳に新らしくなつてしまふ。そこで、昨日の記憶の眞新しい翌日を選んでつづける。二三度くり返してゐる中に、先生は段々聲を低くしてなるべく幼児だけで云はせるやうに導く。かくて第三回目も又翌日位にする。もうすつかり覚え込んでしまふ。

「今日はあなた達だけでお話して頂だい。先生はよく聞いてゐますよ」

云つて、幼児だけに云はせる。あやふやな處だけ先生が補ふ。その上で、

「誰か一人でお話出来るかしら」

き聞いて見る。

「ハイ、僕、僕」

云、手を擧げながら、無暗に自分にして貰ひたくて、立ち上つて先生のまわりに寄つて來る。まだこの中にはさせて見れば一向つゞかないのが多い。そんなにみんなが早く覚えるものではないから。みんなの中で、最も記憶のたしかな、發表力のある子を選んでさせて見る。

このような順序にするに、もう一週間の長い時日が経つても、相當しつかり意味やこぼをつかみ得て、今度は自分のものとして、発表が出来るようになる。

この話は、動作なり、言葉のくり返しが多いので大變覚え易い。この話を選んだ理由もそこにあるわけである。

この中で最も難しいところは、終りの「みんなで川のまわへ来ました」以下であるから、こゝは前のざれよりも、數回くり返した方がいゝ。

吟誦にしても、復誦にしても、最も大切な事は、ていをはをはつきりいふこと、先生が最初に讀んで聞かせる時に、この點をよく氣をつけて、まごころへまごころへ云つたら、是れで終始すること、途中で、まごころにまかへるようなことは決してしてはならぬ。

三

これは、「大いそぎ大いそぎ」「いふ簡単なお話をもごにして、復誦用に作つて見たのである。いふのは、一度これを子供に話して見たら大層喜んだ、その上、あくる日になつても、子供の一人二人がつばめさん、つばめさん、ま

ちらへ、大いそぎ大いそぎ自分で誦んでゐる。そばに居た子も、それを真似てゐる。これをきいて居て復誦にまごころにいゝ話である事に氣がついた。

然し、話して先生が用ふるもの、復誦用として、幼児が覺えるもの、自ら異なるところがあり、いゝ話であつてもすぐには其儘用ひられない。そこで、幾度か作り直し、自分でも暗誦して見て大體右のように簡單にして、第一回をまごころみたのである。原作には、鼯鼠が出たり、牡雞、家鴨が出て來てゐる。此點は幼児に相談して見た。

「つばめさんのあみで、いろんなものが駈け出してゐるのね、犬だの猫だのあひるだの」。まごころ云つたら

「あひるなんか川に落つこちたつて平氣だよ」

まごころの一人が言つた。なるほご、この話は、つばめだけは翅があつてまごころから濡れないが、あみの動物が、つばめの真似をして駈け出して來て、川に落ちてしまふ所に面白いがある。その點は、子供に教へられて止めるまごころにした。河馬がいゝよ、キリンもいゝよ、蛙もいゝよ、まごころいゝよ、に云ひ度いまごころを云ふ、その中から蛙は面白いと思つて、

家鴨をこりかへた。然し河馬や水牛や、キリンはいくら子供
の申し出でも、啼き聲が私には解らないので、結局、
チュウ／＼さか、ビヨン／＼さかの形容にあてはまる動物
を選ぶことにした。

原作をこゝに掲げておく。これは可愛らしいお話をして、
年少組の始めにごくいゝと思ふ。

大いそぎ

天から落ちた棒の頭に、燕が一羽まります。棒はばた
ん／＼倒れました。燕はびつくりして飛び立ちました。そし
て棒の倒れた方へ、真直に風を切つて飛び始めました。

「燕さんごちやうへん」

「大いそぎ 大いそぎ」燕が申しました。野鼠はびつくり
したやうに、自分の穴から飛び出す。燕のあみをかけ出
しました。

「もしもし野鼠さんごちやうへん」

「大いそぎ大いそぎ」野鼠が申しました。鼯鼠は自分の藪
から飛び出しました。そして野鼠の後を追かけました。

「鼯鼠ごへ行く」猫が塀の上からぎなりました。

「大いそぎ大いそぎ」猫は塀の上から飛びおりる。鼯鼠
の後をかけ出しました。

「三毛さんごちやうへん」

「大いそぎ大いそぎ」

犬はあはて、猫のあみをかけ出しました。

「皆さんおそろひでごちやうへん」

「大いそぎ大いそぎ」

牡雞はかけ出しました。牡雞も自分のひよこたちをつれ
てかけ出しました。家鴨もぶかつこうな體を左右に振り
立てながら、かけ出しました。

さて一同は川にさしかかりました。燕は川を越えて向ふ
へ飛んでしまひました。野鼠はまつさきに川に飛び込み
ました。鼯鼠が負けん氣になつて、あみから飛び込みま
した。あみからあみから猫も犬も牡雞もひよこも家鴨も
さんぶご飛び込みました。そしてみんな川の流の早いの
に流されてしまひました。

(作者糸井重吉氏)



日誌より

心の日記の一頁

文華高女
附屬幼稚園

留岡よし子

三月〇日

「あゝ なつかしい幼稚園」

この四月から小學校へ行く子供のお別の歌の最後の一節である。

「先生、なつかしい、つて何のこゝこ?」

「そうねえ、なつかしいといふのはね、すきつていふこゝこ」

「ふうん、でも僕、もう幼稚園はすきぢやないんだよ、學校へ早く行き度いんだもの」

「すきぢやない」の一言にハツミする。

「學校へ」ミ聞いて新しい帽子洋服ランドセルの學生姿を思ひやり、瞬間に立直つた心構えでさりげなく、希望に燃えてゐる可愛いIさんの圓らな瞳をしみぐく見つける。

「そうね、Iさん、早く學校へ行きたいでせうね。洋服も帽子もランドセルも皆、この間お父様に松坂屋で買つて頂いたのですものねえ」ミ意識しての笑顔を向ければ、

「その通り」こいはん許りにIさんもニッコリ。



「でもIさん、また幼稚園へ遊びに来るでせう」 すきでない、にひきづられて、こんな事を聞いて見すにゐられない。

「うん、見せに来るよ」

するに「私も遊びに来るのよ」Mさんの甘え聲。つゞいて「私もよ、ねえM子さん、一緒に来るのねえ」、M子さんののぞきこむ。

二人は家も近所。小學校も同じ。たしかこの前の日曜日に、お揃ひのセーラーが買へた筈。見て欲しい學生姿を思ひ描いてであらう笑顔と笑顔。

突然、T雄さんの子供に似合はぬバスがひびく。

「先生、さういふのがなつかしい、ついでいふのでせう」

「オヤT雄さんらしいことを……」思ふ間もあらせず、T雄さんは調子を變へて

「何だい、Iさんてば、幼稚園がすきでなきや明日から来ない方がいゝよ」

しまつた！ あの瞬間の狼狽を見て取られたのか、T雄さんにはかなはない。

「僕は幼稚園好きだ」「私だつて大好きよ」「僕も」「私も」

そうして非難めいたまなざしがIさんに注がれる。

思ひがけない(全くIさんにまつては思ひがけない)結果となつて、可哀想に、無邪氣な顔に當惑の色が浮ぶ。

これはいけない、些かあわて氣味にならうとする自分を感じる。



Iさんの方は笑顔で慰めて置いて時局收拾。

「さうくなつかしいつていふのはさういふことね、でもI雄さんもM子さんもA子さんも、みんな誰だつてIさんの様に早く學校へ行き度いでせう。みなさんもうこんなに大きくなつて、何でも一人で出来る様になつたのですもの、今度は學校へ行つて澤山面白いことを教へて頂くのでせう」

先生がIさんならやつぱり早く行きたいと思ふけれど、さういふ様子を見れば流石に、I雄さんも子供だ。

「いゝえ何時までも幼稚園に居りたうございます」なきゝいふ顔付はしない。

Iさんも、ニコくした皆を見廻して漸く安心したらしい。

可愛いゝ。離しきもない。けれど學校へ行きたくないさいはれては心配だ。

附添の顔が一寸見えないさいつては泣いた子供、そしてやがて、幼稚園へやりませんよ、さいはれゝばすぐに何でもいふ事をきく様になつたさういふ子供、それが幼稚園に満足しなくなる程成長して十分張切つた心ミ體で勇ましい門出をしやうとする時、もうこの子供さして與へるものを持たず、また求められもせず、忘れられ捨て去られる。

それでこそ憾はない。さはいふもののこの淋しさ。母を忘れる程、喜び勇んで嫁ぎゆく幸福な娘を見送る母の想ひも感はかくあらんかなさゝ、年毎に繰返す淋しい満足。(一〇、三、八)



保育日誌の中より

智

江

子

五八

毎年紀元節も過ぎる頃になるに、やがて一年生になりうとする子供達へ、せめてもの贈物として、アルバムの用意に忙しい幾日かを過す。折にふれては寫しこめて置いた寫眞の數々を取り出して、此れにし様か、あれを入れ様かミ眺めて居れば、まさしく其の頃が思ひ出されて來る。忙しかつた事、色々工夫したり、研究した事等も思ひ起されて、又其の折々の保育日誌を讀み返して見る事もある。其の中の一二を寫眞に添へて、………



*

*

*

*



五月一日(金曜) 鯉幟を立てて

「先生まだ立てられないの」

「え、今すぐね、此の口の所へ針金を入れて」子供達は此の鯉幟りが空高く泳ぐ日を、ぎんなに楽しみにして居る事であらう。縫合せて居る傍に来て矢の催促だ。

「さあー出来ましたよ。立てませう」言へば「ワァーッ」ミ喚聲を擧げて運動場に飛出して行く。初めて作つた此の鯉幟り、よく泳ぐかしら………ミ少し不安な氣がする、長い竿に鯉を付けてジャンゲルジムに立てるミ、「ザーツ」ミ勢ひよく真鯉、緋鯉が五月の空に躍つた。

「やあー泳いだく、高いなあ」ミ我先にミジャンゲルに昇つて振り仰ぐ其の嬉し相な顔、顔。

私も共にホツミして見上げた。五月の風を一ぱいにはらんで、鯉は又一しきり高く泳いで行く。丁度子供達を祝福するかのように、………

註 此の鯉幟はキャラコ地。(看板に用ひる糊つきキャラコ、キャラコ巾一尺八錢)を真鯉は一丈八尺、緋鯉は一丈四尺求めて、片身つゝにして適當に線を書き入れる。床の上に塵を敷き其の上に擴げて、先づ墨でたぎり畫の線を書かせ、乾いた所でポスターカラー及墨で色を着けさせる。胸鰭、腹鰭は別に端切れで各々二枚つゝ作つて置き、両面をミシンで縫合せる時に挟んで縫ふ。口ミ尾は縫ひ合せずに置き、口には太い針金を輪にして入れ、糸でミぢる。布地に糊がきいて居るのでポスターカラーでもにじまず容易に出来る。



六月二十五日（木曜） お店開き

「何の御店を作りませうか」を御相談會をしたのはたしか五月の十日頃であつた。皆の希望で八百や、魚や玩具やの三軒にきまり、三十人の幼児がそれぞれ十人づゝに別れて品物作りをする事になつた。其の間の何ミ忙しかつた事よ……、今日はすつかり出来上つていよゝゝお店開きた。

「此の漬菜一つ下さいな」

「此の蟹を一皿下さいな」次から次へミ詰めかけて來るお客様に、白鉢巻の番頭さんは大忙がし。お野菜もお魚も、まるで羽根が生えた様に賣れて行く。

苟を一本机に置いてはぎうして作らせ様かミ工夫をしたり、鮭の切身を買つて來て寫生をしたりして随分苦心した此のお店、お蔭で幼児は勿論、先生まで、八百や、魚やについて大分委し



くなつた。

育てる事によつて育てられる事をつくづく感謝する。

註 お店、幼児に品物を作らせる傍ら、二間の黒板の所を利用し店作りを始める。先づ模造紙にお店の
中の畫を書かせて後に貼り、二寸角の材木で柱や屋根の横木等を作つて段ボールで屋根を張る。机の上
に積木ミ材木で品物をのせる斜の臺を作り、臺の下は、八百やは木目に、魚やタイルの様に書いた白
ボールで圍ふ。看板や日徐をつけて仕上げる。

品物（八百やの中の一例）

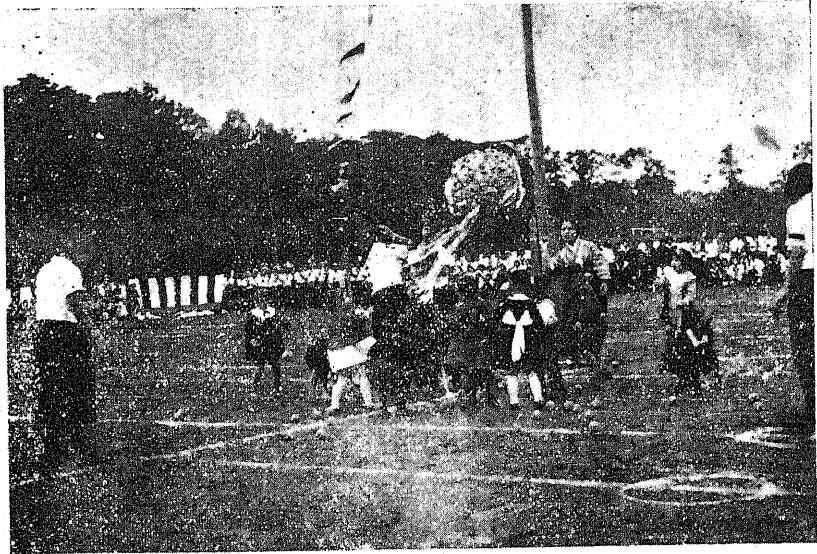
大根、蕪、人蔘、龜井戸、改良半紙に葉にする部分だけ（人蔘は下も）クレオンで書き下は、示を中に入
れて糸で適當にくゝる。

葱 芯に新聞紙を入れて白模造紙を巻き、上の方は綠色に塗つて切れ目を入れる。机の上に又別の紙を
細く二つに折り白い方だけ挟む様にして重ねる。根は白糸で作る。

トマト、玉葱 改良半紙に色を著けて綿を入れて包み、トマトの窪んだ所は糸で縫みめる様にする。

白菜、キャベツ、新聞紙を芯にして、半紙に色を著けてよく揉み、一枚／＼上へ被せて行く。
筍 は同じく新聞紙で芯を作り、模造紙に皮を書いて、段々に下へ／＼重ねる。

漬菜、ほうれん草、同じく半紙に色を著け、根の所で適き糸でくゝる、少し集めて葉で束ねる感じが
出る。



茄子 胡瓜 蠶豆 南瓜、林檎、莓其の他の果物類 は遊びに用ひて丈夫な様に新聞粘土で作る。始めに新聞紙を極く細に切つて水に漬け、掻きまぜてドロ〜になつてから布海苔を煮て入れる。次に粉粘土を徐々に混ぜて、普通の粘土位の硬さにして用ひる。出来たのはよく乾してポスターカラーで二回位色を塗る。

林檎や櫻桃の柄は、乾き切らない中に紙縷を入れて置く感じが出る。

品物(魚やの一例)

鯛、鯖、鯉、比目魚、鯨等の大物は畫用紙で片面づつ作り、中に紙屑又は綿を入れて縫合せる。

蟹、切身物は表を畫用紙 裏は模造紙で作り、中に綿を入れて圍りを糊ではり合せる。

竹輪 改良半紙に色を著け、新聞紙を巻いた物に被せて、両端を中に窪ませる。



蒲鉾、有合せの板を適當に切り、新聞紙を芯にして上に綿も被せ、模造紙で包んで板に糊つけする。兩端も模造紙で貼る。

お刺身、榮螺、蛤、等は新聞粘土で作り色を塗る。

出来上つた品は 或はお皿に盛り 或は箱に竝べたりして、經木に値段を書いて立てる。

十一月一日(日曜) 久壽玉割り

「もういくつ寝るゝ運動會」を指折り楽しんで居た今日の日、幸ひお天氣もよい。

「さあ私が走るのだ」私が遊戲をするからお母様見て」

子供達はあつぱれオリンピッククに出る選手の様な心意氣で居る。

プログラムは進められていよゝゝ久壽玉の番になつた。さうぞよく割れます様に、と思はず祈つてしまふ。工合よく行かず随分苦心させられた久壽玉であるから……

黄み桃色の花に飾られた久壽玉は、芝生の中央に立てられて、ひらくゝミリボンが風になびいて居る。

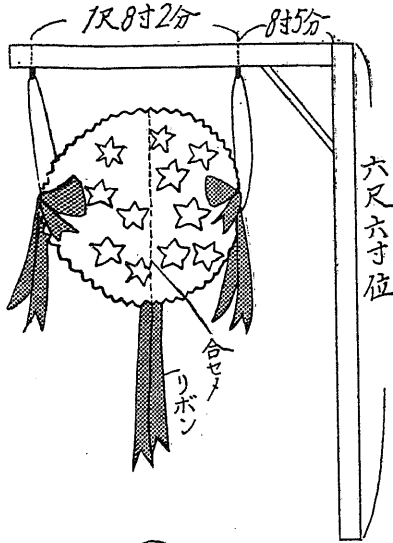
やがて笛の合圖で子供達の手にした紅白の毬は亂れ飛び玉は右に、左に、大きく搖れる。一分。二分。

「アーツ 割れた」。「バンザイ」の聲と共に起る嵐の様な拍手。

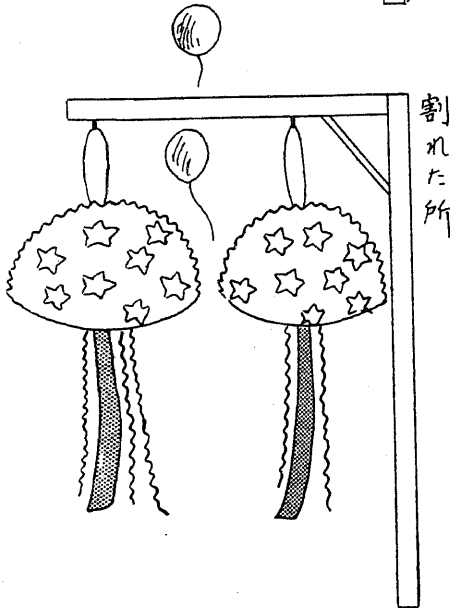
中から出た五色のテープはキラ／＼と輝いて、色／＼の風船が遠く武藏野の空に消えて行く。

註 久壽玉割り、紅白の團體競技で在來の鈴割りを一層華やかに工夫したもの。

竹で編んだ直徑一尺七寸五分深さ七寸五分の半圓の籠を四個用意して、美濃紙で下貼りを行ひ、更に縁



の色紙で全體を貼る。
 黄色ミ桃色の色紙(九寸角)で蓮花を折り黄には赤、桃色には黄の芯を着けて、各々百四十個つゝ作る。
 そして縁で貼つた籠の上に二個には黄色の花を、他の二個には桃色の花をそくひ糊でしつかり着ける。
 中側に五色の紙テープ及び、クリスマスツリーに用ひる色モールを適當につるし、風船又は鳩を入れて、
 籠をつるした際下側になる方で三個所だけ、一寸五分巾の色紙で貼り合せる。



高さ六尺六寸位の棒に、三尺の横木を付け玉の直径よりやゝ廣く間を置いて釘を打ち、兩側から玉をつ
 るす。そしてクレープペーパー二色で兩側及び下に、リボン飾りを着けて仕上げる。これに紅白の毬を打
 ちつけて、早く割れた方を勝とする。

砂場は幼児の樂園

大塚喜一

本誌二月號の拙稿「自他一如」を見て、當時書きたくて多忙のため残したことを述べやう。それは濱寺幼稚園の郊外にあつた「自然の砂場」である。砂遊は小生の子供の時から好きな遊びであるし殊に濱寺では土曜から日曜にかけて日の暮るゝまで遊びつゞけた思ひ出があるので、この日の子供達と遊びつゞお饅頭を作りあつたことは特に心ゆくばかり楽しき生活であつた。その砂を小箱に入れて頂いて歸つたのを、翌日の關西聯合保育會に持参し、名古屋市よりの「幼稚園の標準設備」の問題に對する實物解答として本問題説明者に手交した。その時その箱の上に記した

「砂場は幼児の樂園で、幼稚園第一の設備である」

なる言は、小生の恩師小西重直先生の御言葉である。過日先生御入浴の機に特に御寸暇を頂き、かねてより小生の

隨喜措く能はざるこのお言葉に就き伺つたところ、「あれは自分が獨逸へ留學の際、童兒の砂に遊ぶ様に感ぜしめられたに起因するので、その光景を撮影したい爲當時は得難かつた寫真機を始めて購入した」。感慨深く語られた。

*

これに關聯して今一つ小生の終生忘れ得ざる感銘は、大阪の久寶幼稚園を訪ふた時の事である。砂場で遊んでゐる幼兒達が二組に分れて高い山を造りつゞあつた。細かいよい砂らしかつたので小生も手に握つて見た。「何作つてるの」ミ聲がするので顔を上げるミ、可愛い、年少女兒が親しげに話しかけて呉れてゐる。「お饅頭を作つてゐるが、なかなか出来ないのよ」。ミ話し合つてゐるミ、圓いのを作つて呉れる兒が次から次へミ集つて來る。小生はさうも力の入

れ加減がよくないのかなかく固^{がた}まらない。幾度か仕損じてゐる中に、ふみ小生の側で一人黙々とする一女兒に目をこめた。他の兒の様に盛んに話しかけたり早く澤山作りはしないが、ていねいに一心に作るので圓いきれいなのが出来る。そのお子の手からそれを頂く、砂よりも斯うして作りつゝあるその子の心もちが、頂ける様に感ぜられた。それにも、始めて小生が此の様にして子供達の仲間入りさせて頂いた幾年昔の事が思ひ出され、こうした御馳走を頂いて来たのは其後度々であつたのに今日程の滋味を感得出来なかつたのは、實にうっかりしたこゝであつた。これからこうして子供達から受くる滋味をその心もちのまゝに感得するこゝにより、保育者としての我等の心が育てられて行くであらう。

子供達と我等との眞實の結びつき、その一こきの相互生活により我が内に感得された中味は我が一生の寶となり、たまひ子供達は形の上で別れる日が來ても、この寶は時を経るにつれて益々我が内心の光となり、子供達と我等とを永遠につなぐきづなとなるであらう。今日小生は幼時に

保育を受けた先生の居らるゝ堺第三幼稚園を訪ひ、新しく入替へられた砂に遊んで湧き上つた感激を急ぎ筆にした。日一日と近づく修了を前にして、先生方と幼兒達との今日此頃の心の結びつきが、永遠のつながりにまで内熟せむことを祈りつゝ特にこの稿を記した次第である。

(昭和十二年二月二十六日 堺にて。)

映畫團樂の會

四月三十日
於軍人會館

晝は午後一時よりお子様方のために

I 家なき兒
II 漫 畫

極彩色漫畫
蟻の一生

III タップダンス

リラ、ハマダ
ニナ、ハマダ

夜は午後六時より御家族皆様のために

I 極彩色漫畫
II 乙女の湖

III タップダンス

リラ、ハマダ
ニナ、ハマダ

IV マツルカ

會員券は一圓及び五十錢でございます。

主催 東京女高師保育實習科卒業生同窓會

第三回 國國 保育聯盟總會開催要項

四國 九州

一期 日 昭和十二年五月(三)日(月) 四(火) 曜 二日間

二會 場 別府溫泉場(近々會場決定)

三會 員 中國、四國、九州保育聯盟へ加盟セル幼稚園並ニ托兒所關係者

四會 費 會員一名ニ付 金壹圓五拾錢也

1. 申込ト同時ニ左記ノ通り爲替ヲ以テ拂込ノコト
 2. 領收證ハ開會當日會場受付ニ於テ會員章ヲ交付シ會費領收證ニ代フ
 3. 拂込ノ會費ハ出席ノ有無ニ拘ラズ拂戻セズ
- 昭和十二年三月末日

五 申込期限

1. 協議題、研究題、談話題等ノ御發表ノ通知ハ三月末日限リトス

2. 題目、内容等明示セラレタシ

3. 問題ノ採否及選定ハ主催者ニ御一任ヲ乞フ

七 旅館斡旋 旅館斡旋希望者ハ其旨申込書ニ御記入アリタシ宿料金貳圓也(但ニ食一泊)

八 鐵道割引券 目下五割引交渉中

2. 1. 御申込順ニヨリ送付ス

九 舉行事項 一、 講演 二、 經過報告 三、 協議研究發表
四、 見學 (博覽會、地獄めぐり泉都名所)

一〇 觀光ルート

1. 中津 | 耶馬溪 | 宇佐神宮
2. 由布院 | 日田盆地 | 耶馬溪
3. 白杵石佛 | 風連鐘乳洞 | 豐後竹田 | 阿蘇國立公園

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 下村壽一
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋惣三
 附屬幼稚園主事 倉橋惣三
 日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼児教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タルントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼児教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

- 會ノ開催
 - 一、雜誌發行(毎月一回)
 - 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
 - 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 - 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 會長 一名 會務ヲ總理ス
 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
- 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價

一ヶ月分	金參拾五錢	特等面一頁	二等面一頁
半ヶ年分	金貳圓拾錢	金貳拾圓	金拾圓
一ヶ年分	金四圓貳拾錢	一等面一頁	以下
拾貳冊送	料共	金拾五圓	御斷
拾貳冊送	料共	神田區駿河臺一ノ三品田	廣告社に御申込下さい

（外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）
 昭和十二年三月十五日印刷納本
 昭和十二年三月十五日發行
 幼兒の教育 第三十七卷 第三號

不許複製 載轉禁

發行所 日本幼稚園協會
 東京市小石川區大塚町三十五
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
 振替口座東京一七二六六番
 印刷者 柴山則常
 印刷所 倉橋惣三
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 倉橋惣三

注文規定

- 一、本誌御注文の方は凡て前金郵送共で願ひます。(郵券代用の場合には總て一割増)
- 一、御送金の場合はなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます
- 一、送金の筋には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其筋は早速御送金を願ひます
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます

文部省學校衛生官
體育研究所技師
文檢委員醫學博士

吉田章信先生

指導
坐高測模範掛圖

大附・

日本學校衛生聯盟著

十二年新改正 學校身體檢查精義

最良 最精 最確

改身體檢查指針

▲身體檢查は先づ本書から ▲東洋魂の出版
▲本書一冊萬事解決の寶典 ▲圖書



今回新に改良された坐高の測り方

▼此圖は文部省體育研究所に於て醫學博士吉田章信先生から模範的た好節を脱したものである。
▼此圖を擴大説明を加へ示範用に附録とす。

【次目内容】

- 第一篇 緒論
 - 第一 身體検査の教育的意義
 - 第二 身體検査の精選と新改正の學校身體検査規程の趣旨
 - 第三 本論
 - 第四 検査法
 - 一、検査前の準備
 - 二、測定法
 - 1 身長
 - 2 體重
 - 3 胸圍
 - 4 坐高
- 5 視力 6 聴力
 - 7 齶柱 8 胸廓
 - 9 眼 10 耳 11 鼻
 - 12 皮膚
 - 13 齒齦 14 其他の疾病異常
 - 15 異狀
 - 16 要養護
- 第五 検査及検査項目の教育的見方
 - 一、學校身體検査の當事者
 - 1 學校醫 2 學校齒科醫 3 看護婦
 - 4 學校教員
 - 5 學校と學校醫員
 - 6 學校と學校教員
 - 二、身體検査項目
 - 1 身長 2 體重
 - 3 胸圍 4 坐高
- 第六 身體検査の利用處
 - 一、家庭學校に於ける一般取扱
 - 二、健康相談
 - 三、學校診察
 - 四、特別學校の編制
- 第七 特別身體検査
 - 一、就學の身體検査
 - 二、入學の身體検査
 - 三、職業指導と身體検査
- 第三篇 餘論
 - 一、設備
 - 二、關係法規
 - 三、新規程並附屬書類

坐高測模範掛圖
（縱二尺六寸）
（横二尺八寸）

東洋圖書株式會社

東京市神田區保神一丁目・東京市本區三丁目
東京市本區三丁目・東京市本區三丁目

定一・五〇
送料十二錢
四六版上製
二六八頁
挿繪寫眞類
二十三個
模範表類
二十四枚
實大統計表
二枚

文部省學校衛生官
體育研究所技師
東京高等師範學校講師

大西永次郎先生著

學校衛生原論

文部省學校衛生官
體育研究所技師
文檢委員醫學博士

吉田章信先生著

學校身體檢查法

學校衛生のあらゆる諸問題を解決する

本書は模範法に重點を置く

卒業園兒の寄附による記念品

保育修了園兒が母園へ記念品を寄贈する床しい企
 に、各園からその記念品の選擇方に就て、お問合
 せですが、これは永久に生命ある弊社製品の御選
 擇が最も有意義で御座います。さて、その好評の
 品々は

- ◇波動廻轉塔 一〇〇圓
- ◇子供の家(社會遊び) 八七圓
- ◇スモール・セット 三三圓
- ◇人形芝居一揃(舞臺・人形・背景共) 五〇圓
- ◇大型二十人乗シート 八〇圓
- ◇枠のぼり 一四〇圓
- ◇コンピネーション運動具 一一〇圓
- ◇樂隊遊び用樂器一揃 二〇圓
- ◇大鼓梯子 五〇圓
- ◇鐵製二人乗ぶらんこ 六五圓
- ◇大型鐵製滑り臺 九〇圓
- ◇箱積木 一八〇圓



食館レベール社株式

番二六六三(33)話電・二町保神・田神・京東 社本
 番七二八三(34)話電・五町後備・區東・阪大 所張出

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
 (毎)一回十五日後發行

昭和十二年三月十三日印刷納本
 昭和十二年三月十五日發行

定價三十五錢